****心理学部　教育発達学科****

２０１９年度生用

明治学院大学履修要項

～履修の方法を知るために～

2021

Meiji Gakuin University

目　次

はじめに ……

情報の伝達 ……

学修の手引き ……

カリキュラム ……

単位制 ……

履修 ……

授業 ……

試験 ……

成績 ……

卒業と学位 ……

単位認定 ……

明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケイト・プログラム……

明治学院共通科目 …… ２７

期待される学修成果と授業科目の関連表(能力要件表)…… ３１

明治学院共通科目履修の方法 …… ４０

履修上の注意…… ４０

科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞについて …… ４１

必修科目…… ４２

1. ［ｺｱ科目］ …… ４２

2. ［言語系科目］ …… ４２

3. ［情報処理系科目］ …… ４３

選択科目…… ４４

1. ［言語系科目群］ …… ４４

2. ［人文科学系科目群］ …… ４６

3. ［社会科学系科目群］ …… ４７

4. ［自然科学系科目群］ …… ４７

5. ［情報処理系科目群］ …… ４８

6. ［健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学系科目群］ …… ４８

7. ［総合教育系科目群］ …… ４８

8. ［特別学科科目］ …… ５０

全学部共通の学修の手引き等がありますので、そちらをご覧ください

単位認定用科目 ５１
1. ［短期留学認定科目］ ５１
2. ［海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ関連科目］ ５１

教育発達学科

《心　理　学　部》

人材養成上の目的・教育目標 ７７
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー） ７７
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） ７７
■教 育 発 達 学 科
人材養成上の目的・教育目標 ７８
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー） ７８
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） ７８
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連表（能力要件表） ８０
教育発達学科履修の方法 ８３
教育職員免許状取得の方法 ９３

心理学部専任教員一覧 １１５

諸資格 １１７
１．社会教育士・社会教育主事 １１９
２．社会福祉主事 １２１
３．児童福祉司 １２３

明治学院共通科目

期待される学修成果と授業科目の関連表(能力要件表)（明治学院共通科目　心理学部）

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」		期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」に基づく身につく能力		現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
必修科目						
1.ｺｱ科目						
MGCHR101ｷﾘｽﾄ教の基礎A	1	◎				
MGCHR102ｷﾘｽﾄ教の基礎B	1	◎				
2.言語系科目						
MGENG101英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1A	1		◎	○		
MGENG102英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1B	1		◎	○		
MGENG103英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2A	1		◎	○		
MGENG104英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2B	1		◎	○		
MGFRE101ﾌﾗﾝｽ語1A	1		◎	○		
MGFRE102ﾌﾗﾝｽ語1B	1		◎	○		
MGFRE103ﾌﾗﾝｽ語2A	1		◎	○		
MGFRE104ﾌﾗﾝｽ語2B	1		◎	○		
MGCHN101中国語1A	1		◎	○		
MGCHN102中国語1B	1		◎	○		
MGCHN103中国語2A	1		◎	○		
MGCHN104中国語2B	1		◎	○		
MGGER101ﾄﾞｲﾂ語1A	1		◎	○		
MGGER102ﾄﾞｲﾂ語1B	1		◎	○		
MGGER103ﾄﾞｲﾂ語2A	1		◎	○		
MGGER104ﾄﾞｲﾂ語2B	1		◎	○		
MGSPN101ｽﾍﾟｲﾝ語1A	1		◎	○		
MGSPN102ｽﾍﾟｲﾝ語1B	1		◎	○		
MGSPN103ｽﾍﾟｲﾝ語2A	1		◎	○		
MGSPN104ｽﾍﾟｲﾝ語2B	1		◎	○		
MGKOR101韓国語1A	1		◎	○		
MGKOR102韓国語1B	1		◎	○		
MGKOR103韓国語2A	1		◎	○		
MGKOR104韓国語2B	1		◎	○		
MGJPN101日本語1A	1		◎	○		
MGJPN102日本語1B	1		◎	○		
MGJPN103日本語2A	1		◎	○		
MGJPN104日本語2B	1		◎	○		
3.情報処理系科目						
MGCOM101ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ1	1	◎	○		○	
MGCOM102ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ2	1	◎	○		○	
選択科目						
1.言語系科目群						
MGFRE111ﾌﾗﾝｽ語演習初級A	1		◎	○		
MGFRE112ﾌﾗﾝｽ語演習初級B	1		◎	○		
MGFRE221ﾌﾗﾝｽ語演習中級A	1		◎	○	○	
MGFRE222ﾌﾗﾝｽ語演習中級B	1		◎	○	○	
MGCHN111中国語演習初級A	1		◎	○		
MGCHN112中国語演習初級B	1		◎	○		
MGCHN221中国語演習中級A	1		◎	○	○	
MGCHN222中国語演習中級B	1		◎	○	○	
MGGER111ﾄﾞｲﾂ語演習初級A	1		◎	○		
MGGER112ﾄﾞｲﾂ語演習初級B	1		◎	○		
MGGER221ﾄﾞｲﾂ語演習中級A	1		◎	○	○	
MGGER222ﾄﾞｲﾂ語演習中級B	1		◎	○	○	
MGSPN111ｽﾍﾟｲﾝ語演習初級A	1		◎	○		
MGSPN112ｽﾍﾟｲﾝ語演習初級B	1		◎	○		
MGSPN221ｽﾍﾟｲﾝ語演習中級A	1		◎	○	○	
MGSPN222ｽﾍﾟｲﾝ語演習中級B	1		◎	○	○	
MGKOR111韓国語演習初級A	1		◎	○		
MGKOR112韓国語演習初級B	1		◎	○		
MGKOR221韓国語演習中級A	1		◎	○	○	

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」		期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」に基づく身につく能力		現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
MGKOR222韓国語演習中級B	1		◎	○	○	
MGENG201英語特別研究A	1		◎	○		
MGENG202英語特別研究B	1		◎	○		
MGENG211英語研究1A	2	○	◎	○		
MGENG212英語研究1B	2	○	◎	○		
MGENG213英語研究2A	2	○	◎	○		
MGENG214英語研究2B	2	○	◎	○		
MGENG215英語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGENG216英語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGFRE211ﾌﾗﾝｽ語研究1A	2		◎	○	○	
MGFRE212ﾌﾗﾝｽ語研究1B	2		◎	○	○	
MGFRE213ﾌﾗﾝｽ語研究2A	2		◎	○	○	
MGFRE214ﾌﾗﾝｽ語研究2B	2		◎	○	○	
MGFRE315ﾌﾗﾝｽ語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGFRE316ﾌﾗﾝｽ語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGFRE317ﾌﾗﾝｽ語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGFRE318ﾌﾗﾝｽ語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGCHN211中国語研究1A	2		◎	○	○	
MGCHN212中国語研究1B	2		◎	○	○	
MGCHN213中国語研究2A	2		◎	○	○	
MGCHN214中国語研究2B	2		◎	○	○	
MGCHN315中国語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGCHN316中国語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGCHN317中国語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGCHN318中国語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGGER211ﾄﾞｲﾂ語研究1A	2		◎	○	○	
MGGER212ﾄﾞｲﾂ語研究1B	2		◎	○	○	
MGGER213ﾄﾞｲﾂ語研究2A	2		◎	○	○	
MGGER214ﾄﾞｲﾂ語研究2B	2		◎	○	○	
MGGER315ﾄﾞｲﾂ語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGGER316ﾄﾞｲﾂ語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGGER317ﾄﾞｲﾂ語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGGER318ﾄﾞｲﾂ語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGSPN211ｽﾍﾟｲﾝ語研究1A	2		◎	○	○	
MGSPN212ｽﾍﾟｲﾝ語研究1B	2		◎	○	○	
MGSPN213ｽﾍﾟｲﾝ語研究2A	2		◎	○	○	
MGSPN214ｽﾍﾟｲﾝ語研究2B	2		◎	○	○	
MGSPN315ｽﾍﾟｲﾝ語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGSPN316ｽﾍﾟｲﾝ語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGSPN317ｽﾍﾟｲﾝ語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGSPN318ｽﾍﾟｲﾝ語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGRUS211ﾛｼｱ語研究1A	2		◎	○	○	
MGRUS212ﾛｼｱ語研究1B	2		◎	○	○	
MGRUS213ﾛｼｱ語研究2A	2		◎	○	○	
MGRUS214ﾛｼｱ語研究2B	2		◎	○	○	
MGRUS315ﾛｼｱ語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGRUS316ﾛｼｱ語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGRUS317ﾛｼｱ語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGRUS318ﾛｼｱ語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGKOR211韓国語研究1A	2		◎	○	○	
MGKOR212韓国語研究1B	2		◎	○	○	
MGKOR213韓国語研究2A	2		◎	○	○	
MGKOR214韓国語研究2B	2		◎	○	○	
MGKOR315韓国語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGKOR316韓国語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGKOR317韓国語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGKOR318韓国語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGFRE205ﾌﾗﾝｽ語3A	1		◎	○		
MGFRE206ﾌﾗﾝｽ語3B	1		◎	○		

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」		期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」に基づく身につく能力		現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
MGFRE207ﾌﾗﾝｽ語4A	1		◎	○		
MGFRE208ﾌﾗﾝｽ語4B	1		◎	○	○	
MGCHN205中国語3A	1		◎	○		
MGCHN206中国語3B	1		◎	○		
MGCHN207中国語4A	1		◎	○		
MGCHN208中国語4B	1		◎	○		
MGGER205ﾄﾞｲﾂ語3A	1		◎	○		
MGGER206ﾄﾞｲﾂ語3B	1		◎	○		
MGGER207ﾄﾞｲﾂ語4A	1		◎	○		
MGGER208ﾄﾞｲﾂ語4B	1		◎	○		
MGSPN205ｽﾍﾟｲﾝ語3A	1		◎	○		
MGSPN206ｽﾍﾟｲﾝ語3B	1		◎	○		
MGSPN207ｽﾍﾟｲﾝ語4A	1		◎	○		
MGSPN208ｽﾍﾟｲﾝ語4B	1		◎	○		
MGKOR205韓国語3A	1		◎	○		
MGKOR206韓国語3B	1		◎	○		
MGKOR207韓国語4A	1		◎	○		
MGKOR208韓国語4B	1		◎	○		
MGITA101ｲﾀﾘｱ語の基礎A	1		◎	○		
MGITA102ｲﾀﾘｱ語の基礎B	1		◎	○		
MGARB101ｱﾗﾋﾞｱ語の基礎A	1		◎	○		
MGARB102ｱﾗﾋﾞｱ語の基礎B	1		◎	○		
MGTHA101ﾀｲ語の基礎A	1		◎	○		
MGTHA102ﾀｲ語の基礎B	1		◎	○		
MGGRE101ｷﾞﾘｼｱ語研究A	1		◎	○		
MGGRE102ｷﾞﾘｼｱ語研究B	1		◎	○		
MGLAT101ﾗﾃﾝ語研究A	1		◎	○		
MGLAT102ﾗﾃﾝ語研究B	1		◎	○		
MGSIG101手話1	1		◎	○		
MGSIG202手話2	1		◎	○		
MGEUC101ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化入門1	1	◎	○	○		
MGEUC102ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化入門2	1	◎	○	○		
MGEUC103ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化入門3	1	◎	○	○		
MGEUC104ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化入門4	1	◎	○	○		
MGEUC105ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化入門5	1	◎	○	○		
MGEUC106ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化入門6	1	◎	○	○		
MGEUC111ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化各論1	1	◎	○	○		
MGEUC112ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化各論2	1	◎	○	○		
MGEUC113ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化各論3	1	◎	○	○		
MGEUC114ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化各論4	1	◎	○	○		
MGEUC115ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化各論5	1	◎	○	○		
MGEUC116ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化各論6	1	◎	○	○		
MGASC101ｱｼﾞｱ言語圏の文化入門1	1	◎	○	○		
MGASC102ｱｼﾞｱ言語圏の文化入門2	1	◎	○	○		
MGASC103ｱｼﾞｱ言語圏の文化入門3	1	◎	○	○		
MGASC104ｱｼﾞｱ言語圏の文化入門4	1	◎	○	○		
MGASC111ｱｼﾞｱ言語圏の文化各論1	1	◎	○	○		
MGASC112ｱｼﾞｱ言語圏の文化各論2	1	◎	○	○		
MGASC113ｱｼﾞｱ言語圏の文化各論3	1	◎	○	○		
MGASC114ｱｼﾞｱ言語圏の文化各論4	1	◎	○	○		
MGJPN205日本語3A	2		◎	○		
MGJPN206日本語3B	2		◎	○		
MGJPN207日本語4A	2		◎	○		
MGJPN208日本語4B	2		◎	○		
MGJPN211日本語研究1A	2		◎	○		
MGJPN212日本語研究1B	2		◎	○		
MGJPN213日本語研究2A	2		◎	○		
MGJPN214日本語研究2B	2		◎	○		
MGJPN215日本語研究3A	2		◎	○		

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」		期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」に基づく身につく能力		現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
MGJPN216日本語研究3B	2		◎	○		
2.人文科学系科目群						
MGCHR201聖書の世界1	2	◎				
MGCHR202聖書の世界2	2	◎				
MGCHR203聖書の世界3	2	◎				
MGCHR204聖書の世界4	2	◎				
MGCHR211ｷﾘｽﾄ教の思想と文化1	1			◎		
MGCHR212ｷﾘｽﾄ教の思想と文化2	1			◎		
MGCHR213ｷﾘｽﾄ教の思想と文化3	1			◎		
MGCHR214ｷﾘｽﾄ教の思想と文化4	1			◎		
MGCHR221宗教史1	1	◎				
MGCHR222宗教史2	1	◎				
MGCHR223宗教史3	1	◎				
MGCHR224宗教史4	1	◎				
MGCHR231現代社会とｷﾘｽﾄ教1	1				○	◎
MGCHR232現代社会とｷﾘｽﾄ教2	1				○	◎
MGCHR233現代社会とｷﾘｽﾄ教3	1				○	◎
MGCHR234現代社会とｷﾘｽﾄ教4	1				○	◎
MGPHI101哲学史1	1	◎	○	○	○	
MGPHI102哲学史2	1	◎	○	○	○	
MGPHI201哲学各論1	1	○	◎	○	○	
MGPHI202哲学各論2	1	○	◎	○	○	
MGPHI211科学思想1	1	○	◎	○	○	
MGPHI212科学思想2	1	○	◎	○	○	
MGETH101倫理学入門1	1	◎	○	○	○	
MGETH102倫理学入門2	1	◎	○	○	○	
MGETH201倫理学各論1	1	○	◎	○	○	
MGETH202倫理学各論2	1	○	◎	○	○	
MGETH203倫理学各論3	1	○	◎	○	○	
MGETH204倫理学各論4	1	○	◎	○	○	
MGLOG101論理学概論1	1	◎	○	○	○	
MGLOG102論理学概論2	1	◎	○	○	○	
MGLOG201伝統論理学1	1	○	◎	○	○	
MGLOG202伝統論理学2	1	○	◎	○	○	
MGLOG211現代論理学1	1	○	◎	○	○	
MGLOG212現代論理学2	1	○	◎	○	○	
MGLIN101言語科学の基礎1	1	◎	○	○	○	
MGLIN102言語科学の基礎2	1	◎	○	○	○	
MGLIN103言語科学の基礎3	1	◎	○	○	○	
MGLIN104言語科学の基礎4	1	◎	○	○	○	
MGPSY101心理学入門1	1	◎	○		○	
MGPSY102心理学入門2	1	◎	○		○	
MGPSY201心理学各論1	2	○	◎		○	
MGPSY202心理学各論2	2	○	◎		○	
MGPSY203心理学各論3	2	○	◎		○	
MGPSY204心理学各論4	2	○	◎		○	
MGEDU101教育学の基礎1	1	◎				
MGEDU102教育学の基礎2	1	◎				
MGART101芸術学の基礎1	1	◎	○			
MGART102芸術学の基礎2	1	◎	○			
MGART201芸術学各論1	1	◎	○			
MGART202芸術学各論2	1	◎	○			
MGART203芸術学各論3	1	◎	○			
MGART204芸術学各論4	1	◎	○			
MGART205芸術学各論5	1	◎	○			
MGART206芸術学各論6	1	◎	○			
MGJPL101日本文学概論1	1	◎	○	○		
MGJPL102日本文学概論2	1	◎	○	○		
MGJPL201日本文学講読1	1	○	○	◎		

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」		期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」に基づく身につく能力		現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
MGJPL202日本文学講読2	1	○	○	◎		
MGJPL203日本文学講読3	1	○	○	◎		
MGJPL204日本文学講読4	1	○	○	◎		
MGJPS101日本文化論入門1	1	◎		○		○
MGJPS102日本文化論入門2	1	◎		○		○
MGJPS103日本文化論入門3	1	◎		○		○
MGJPS104日本文化論入門4	1	◎		○		○
MGJPS201日本文化特論1	1			◎		○
MGJPS202日本文化特論2	1			◎		○
3.社会科学系科目群						
MGLAW101法学(日本国憲法を含む) 1	1	◎	○		○	○
MGLAW102法学(日本国憲法を含む) 2	1	◎	○		○	○
MGPOS101政治学1	1	◎	○		○	○
MGPOS102政治学2	1	◎	○		○	○
MGSOC101社会学理論の基礎1	1	○	◎	○		
MGSOC102社会学理論の基礎2	1	○	◎	○		
MGSOC111文化とﾒﾃﾞｨｱの社会学入門1	1		◎	○		
MGSOC112文化とﾒﾃﾞｨｱの社会学入門2	1		◎	○		
MGSOC121生命とｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨの社会学入門1	1		◎	○		
MGSOC122生命とｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨの社会学入門2	1		◎	○		
MGSOC131環境とｺﾐｭﾆﾃｨの社会学入門1	1		◎	○		
MGSOC132環境とｺﾐｭﾆﾃｨの社会学入門2	1		◎	○		
MGSWS101社会福祉学1	1	◎		○		○
MGSWS102社会福祉学2	1	◎		○		○
MGECN101経済学1	1	◎		○	○	○
MGECN102経済学2	1	◎		○	○	○
MGSTA101統計学1	1	◎				○
MGSTA102統計学2	1	◎				○
MGSTA103統計学3	1	◎				○
MGSTA104統計学4	1	◎				○
MGHIS201歴史学1	1	○	○	◎		○
MGHIS202歴史学2	1	○	○	◎		○
MGHIS203歴史学3	1	○	○	◎		○
MGHIS204歴史学4	1	○	○	◎		○
MGHIS205歴史学5	1	○	○	◎		○
MGHIS206歴史学6	1	○	○	◎		○
MGHIS211歴史学の世界1	1	○	○	◎		○
MGHIS212歴史学の世界2	1	○	○	◎		○
MGGEO101人文地理学入門1	1	◎	○			
MGGEO102人文地理学入門2	1	◎	○			
MGGEO201人文地理学1	1	○	◎	○		
MGGEO202人文地理学2	1	○	◎	○		
MGGEO203人文地理学3	1	○	◎	○		
MGGEO204人文地理学4	1	○	◎	○		
MGGEO205人文地理学5	1	○	◎	○		
MGGEO206人文地理学6	1	○	◎	○		
MGANT101文化人類学入門1	1	○	○	◎		○
MGANT102文化人類学入門2	1	○	○	◎		○
MGANT201文化人類学各論1	1	○	○	◎		○
MGANT202文化人類学各論2	1	○	○	◎		○
MGSOS101社会科学概論1	1	○	○	◎		○
MGSOS102社会科学概論2	1	○	○	◎		○
MGSOS103社会科学概論3	1	○	○	◎		○
MGSOS104社会科学概論4	1	○	○	◎		○
4.自然科学系科目群						
MGMAT101数学入門1	1	◎	○		○	
MGMAT102数学入門2	1	◎	○		○	
MGMAT111数学1	1	◎	○		○	
MGMAT112数学2	1	◎	○		○	

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」		期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」に基づく身につく能力		現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
MGMAT113数学3	1	◎	○		○	
MGMAT114数学4	1	◎	○		○	
MGMAT211数学特論1	1	○	○		◎	
MGMAT212数学特論2	1	○	○		◎	
MGPHY101物理学入門1	1	◎	○		○	○
MGPHY102物理学入門2	1	◎	○		○	○
MGPHY103物理学入門3	1	◎	○		○	○
MGPHY201現代の物理学1	1	◎	○		○	○
MGPHY202現代の物理学2	1	◎	○		○	○
MGPHY203現代の物理学3	1	◎	○		○	○
MGPHY211物理学特論	1	○	○		○	◎
MGPHY121物理学方法論A	1	○	○		○	◎
MGPHY122物理学方法論B	1	○	○		○	◎
MGCHE101化学入門1	1	◎	○			
MGCHE102化学入門2	1	◎	○			
MGCHE201現代の化学1	1	◎	○			
MGCHE202現代の化学2	1	◎	○			
MGCHE203現代の化学3	1	◎	○			
MGCHE204現代の化学4	1	◎	○			
MGCHE121化学方法論A	1	○			○	◎
MGCHE122化学方法論B	1	○			○	◎
MGBIO101生物学入門1	1	◎	○		○	○
MGBIO102生物学入門2	1	◎	○		○	○
MGBIO201現代の生物学1	1	◎	○		○	○
MGBIO202現代の生物学2	1	◎	○		○	○
MGBIO203現代の生物学3	1	◎	○		○	○
MGBIO204現代の生物学4	1	◎	○		○	○
MGBIO205現代の生物学5	1	◎	○		○	○
MGBIO211生物学特論	1	○	○		○	◎
MGBIO121生物学方法論A	1	○	○		○	◎
MGBIO122生物学方法論B	1	○	○		○	◎
MGLIS101生命科学入門1	1	◎	○			
MGLIS102生命科学入門2	1	◎	○			
MGLIS201生命科学各論1	1	◎	○			
MGLIS202生命科学各論2	1	◎	○			
MGLIS203生命科学各論3	1	◎	○			
MGLIS211生命科学特論	1	○	○		○	◎
MGLIS121生命科学方法論A	1	○	○		○	◎
MGLIS122生命科学方法論B	1	○	○		○	◎
5.情報処理系科目群						
MGCOM201ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究1A	1	◎	○		○	
MGCOM202ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究1B	1	◎	○		○	
MGCOM203ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究2A	1	◎	○		○	
MGCOM204ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究2B	1	◎	○		○	
MGCOM211情報科学1	1	◎	○		○	
MGCOM212情報科学2	1	◎	○		○	
MGCOM213情報科学3	1	◎	○		○	
MGCOM214情報科学4	1	◎	○		○	
6.健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学系科目群						
MGHSS101健康科学概論1	1	◎			○	○
MGHSS102健康科学概論2	1	◎			○	○
MGHSS111ｽﾎﾟｰﾂ科学概論1	1	◎			○	○
MGHSS112ｽﾎﾟｰﾂ科学概論2	1	◎			○	○
MGHSS121ｽﾎﾟｰﾂ社会学概論1	1	◎			○	○
MGHSS122ｽﾎﾟｰﾂ社会学概論2	1	◎			○	○
MGHSS131ｽﾎﾟｰﾂ方法学1	1		◎	○	○	○
MGHSS132ｽﾎﾟｰﾂ方法学2	1		◎	○	○	○
MGHSS133ｽﾎﾟｰﾂ方法学3	1		◎	○	○	○
MGHSS134ｽﾎﾟｰﾂ方法学4	1		◎	○	○	○

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」		期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」に基づく身につく能力		現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
MGHSS201ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学理論･実習1	1	○		○	○	◎
MGHSS202ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学理論･実習2	1	○		○	○	◎
MGHSS211ﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ理論･実習1	1	○			○	◎
MGHSS212ﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ理論･実習2	1	○			○	◎
MGHSS141ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究1A	1		◎	○	○	○
MGHSS143ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究2A	1		◎	○	○	○
MGHSS145ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究3A	1		◎	○	○	○
MGHSS242ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究1B	1		○	◎	○	○
MGHSS244ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究2B	1		○	◎	○	○
MGHSS246ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究3B	1		○	◎	○	○
7.総合教育系科目群						
MGIND101現代世界と人間1	1		○	◎	○	
MGIND102現代世界と人間2	1		○	◎	○	
MGIND103現代世界と人間3	1		○	◎	○	
MGIND104現代世界と人間4	1		○	◎	○	
MGIND105現代世界と人間5	1		○	◎	○	
MGIND106現代世界と人間6	1		○	◎	○	
MGIND111現代社会と教養1	1		○	◎	○	
MGIND112現代社会と教養2	1		○	◎	○	
MGIND121多文化共生入門1	1		○	◎	○	○
MGIND122多文化共生入門2	1		○	◎	○	○
MGIND201多文化共生各論1	1		○	◎	○	○
MGIND202多文化共生各論2	1		○	◎	○	○
MGIND203多文化共生各論3	1		○	◎	○	○
MGIND204多文化共生各論4	1		○	◎	○	○
MGIND131ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ入門1	1		○	○	◎	○
MGIND132ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ入門2	1		○	○	◎	○
MGIND211ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ各論1	1		○	○	◎	○
MGIND212ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ各論2	1		○	○	◎	○
MGIND213ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ各論3	1		○	○	◎	○
MGIND214ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ各論4	1		○	○	◎	○
MGIND141現代平和研究1	1	○	○	◎	○	
MGIND142現代平和研究2	1	○	○	◎	○	
MGIND143現代平和研究3	1	○	○	◎		○
MGIND221ｽﾀﾃﾞｨｰﾂｱｰ1	1		◎	○		
MGIND222ｽﾀﾃﾞｨｰﾂｱｰ2	1		◎	○		
MGIND223ｽﾀﾃﾞｨｰﾂｱｰ3	1		◎	○		
MGIND224ｽﾀﾃﾞｨｰﾂｱｰ4	1		◎	○		
MGMGS101明治学院研究1	1	◎				
MGMGS202明治学院研究2	1	◎				
MGMGS203明治学院研究3	1	◎				
MGENV101環境学各論1	1	◎	○		○	
MGENV102環境学各論2	1	◎	○		○	
MGENV103環境学各論3	1	○	○		○	◎
MGENV104環境学各論4	1	○	○		○	◎
MGSUS101ｻｽﾃｲﾅﾋﾞﾘﾃｨｰ学1	1		◎	○	○	○
MGSUS102ｻｽﾃｲﾅﾋﾞﾘﾃｨｰ学2	1		◎	○	○	○
MGSUS103ｻｽﾃｲﾅﾋﾞﾘﾃｨｰ学3	1		◎	○	○	○
MGSUS104ｻｽﾃｲﾅﾋﾞﾘﾃｨｰ学4	1		◎	○	○	○
MGVOL101ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学入門1	1		○	◎		○
MGVOL102ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学入門2	1		○	◎		○
MGVOL103ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学入門3	1		○	◎		○
MGVOL104ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学入門4	1		○	◎		○
MGVOL111ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ社会と市民活動入門1	1		○	◎	○	○
MGVOL112ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ社会と市民活動入門2	1		○	◎	○	○
MGVOL201ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ社会と市民活動1	1		○	○	◎	○
MGVOL202ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ社会と市民活動2	1		○	○	○	◎
MGVOL121ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動論(国内)1A	1		○	◎	○	
MGVOL122ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動論(海外)2A	1		○	◎	○	

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」		期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」に基づく身につく能力		現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
MGVOL223ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動論(国内)1B	1			○	◎	○
MGVOL224ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動論(海外)2B	2			○	◎	○
MGVOL231ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動実習(国内)	1			○	○	◎
MGVOL232ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動実習(海外)	2			○	○	◎
MGVOL301ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動研究(国内)	2		○		◎	○
MGVOL302ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動研究(海外)	2		○		◎	○
MGACW101ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ﾗｲﾃｨﾝｸﾞの基礎	1		◎	○	○	
MGACW201ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ演習1	1		◎	○	○	
MGLCD101ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ1	1		○	○	◎	○
MGLCD202ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ2	2		○	○	◎	○
MGLCD203ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ3	3		○	○	◎	○
MGLCD204ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ4	3		○	○	◎	○
MGLCD111ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ1	2		○	◎	○	○
MGLCD212ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ2	2		○	◎	○	○
MGSEM301ｱｼﾞｱ･日本研究A	3		◎	○	○	○
MGSEM302ｱｼﾞｱ･日本研究B	3		◎	○	○	○
MGSEM311ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化圏研究A	3		◎	○	○	○
MGSEM312ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化圏研究B	3		◎	○	○	○
MGSEM321現代科学研究A	3		○	○	◎	○
MGSEM322現代科学研究B	3		○	○	◎	○
MGSEM331現代社会研究A	3		◎	○	○	○
MGSEM332現代社会研究B	3		◎	○	○	○
MGPIO101ｵﾙｶﾞﾝ実習1	2	◎				
MGPIO202ｵﾙｶﾞﾝ実習2	2	◎				
MGINT201Japanese Arts and Culture 1	1	◎	○	○		
MGINT202Japanese Arts and Culture 2	1	◎	○	○		
MGINT203Japanese Arts and Culture 3	1	◎	○	○		
MGINT204Japanese Arts and Culture 4	1	◎	○	○		
MGINT205Japanese Arts and Culture 5	1	◎	○	○		
MGINT206Japanese Arts and Culture 6	1	◎	○	○		
MGINT211Japanese History 1	1	◎	○	○		
MGINT212Japanese History 2	1	◎	○	○		
MGINT213Japanese History 3	1	◎	○	○		
MGINT214Japanese History 4	1	◎	○	○		
MGINT215Japanese History 5	1	◎	○	○		
MGINT216Japanese History 6	1	◎	○	○		
MGINT221Japanese Society 1	1	◎	○	○		
MGINT222Japanese Society 2	1	◎	○	○		
MGINT223Japanese Society 3	1	◎	○	○		
MGINT224Japanese Society 4	1	◎	○	○		
MGINT225Japanese Society 5	1	◎	○	○		
MGINT226Japanese Society 6	1	◎	○	○		
MGINT231Multilingualism and Multiculturalism 1	1	◎	○	○		
MGINT232Multilingualism and Multiculturalism 2	1	◎	○	○		
MGINT233Multilingualism and Multiculturalism 3	1	◎	○	○		
MGINT234Multilingualism and Multiculturalism 4	1	◎	○	○		
MGINT241Current Issues 1	1	◎	○	○		
MGINT242Current Issues 2	1	◎	○	○		
MGINT243Current Issues 3	1	◎	○	○		
MGINT244Current Issues 4	1	◎	○	○		
MGCCS111異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究A	1		○	◎	○	
MGCCS112異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究B	1		○	◎	○	
留学生関連科目						
MGCCS101日本の社会と文化1A	1		○	◎	○	
MGCCS102日本の社会と文化1B	1		○	◎	○	
MGCCS103日本の社会と文化2A	1		○	◎	○	
MGCCS104日本の社会と文化2B	1		○	◎	○	
MGCCS105日本の社会と文化3A	1		○	◎	○	
MGCCS106日本の社会と文化3B	1		○	◎	○	

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」		期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」に基づく身につく能力		現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
MGACW202ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ演習2(留学生専用)	1		◎	○	○	
8.特別学科科目						
社会学概論A	1	◎	○	○		
社会学概論B	1	◎	○	○		
単位認定用科目						
1.短期留学認定科目						
MGRES101ﾖｰﾛｯﾊﾟ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES102ｲｷﾞﾘｽ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES103ｽﾍﾟｲﾝ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES104ﾄﾞｲﾂ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES105ﾌﾗﾝｽ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES106ｱﾒﾘｶ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES107ｶﾅﾀﾞ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES108韓国研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES109中国研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES110ｵｾｱﾆｱ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES111東南ｱｼﾞｱ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
2.海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ 関連科目						
MGITS101海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ課題研究A	1		○	○	○	◎
MGITS102海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ課題研究B	1		○	○	○	◎
MGITS201海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟA	1		○	○	○	◎
MGITS202海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟB	1		○	○	○	◎

明治学院共通科目履修の方法

本学の授業科目は、学科科目と共通科目によって構成されており、それぞれについて卒業のために必要とされる修得単位数等が定められている。学生は、学科の定めるところに従いつつ、4年間にわたる自らの学修計画を決定しなければならない。以下は、「明治学院共通科目」の科目名と履修上の諸注意である。学生諸君には、下記の記載事項を精読して、履修登録上の事故を未然に防ぐとともに、自らの教養を高めるために有用な授業科目を見出すことを切に期待する。

［履修上の注意］

①A･Bあるいは1～6はそれぞれ独立した科目である。なお、原則としてA･Bは、同一曜時限の同一担当者のｸﾗｽを履修することとし、同一曜時限に複数ｸﾗｽが開講されている場合にも、いずれか1ｸﾗｽを定めて履修するものとする。

②A･Bは原則としてその順序で履修する（いずれかのみの履修の可否、あるいは両方の履修の要否は科目ごとに指示する）こととするが、1～6は特に指示された場合を除き、どの順序で履修しても差し支えない。また、1～6の全てを履修する必要はない。なお、同学期中に1～6の番号の異なる複数の授業を履修してもよい。

③以下の表の配当年次とは、その科目を履修できる下限の年次を示したものである。1年次配当科目とは、1年次以上の学生が履修できることを意味している。

④特に指示がある科目を除き、同一科目が異なる曜時限に複数開講されている場合でも、履修できるのは1つだけである。(例:「ｷﾘｽﾄ教の思想と文化1」が月曜1限と月曜2限に開講されている場合、履修できるのは片方のみ)

⑤修得可能な単位数は、学科ごとに定められている。『履修要項』での説明を参照すること。

⑥履修可能なｸﾗｽの開講学期等については、Port Hepburnの時間割表(開講科目情報)で、各自が所属する学科・入学年度の時間割表を参照すること。

⑦学生は自身の興味関心にしたがって所定のﾙｰﾙの範囲内で自由に履修することができるが、関連する科目を有機的に履修することにより、学修の幅をもたせることが可能である。その理想的な「ﾓﾃﾞﾙ」として各ﾃｰﾏに沿った「仮想ｺｰｽ」（「ｱｼﾞｱ地域研究入門ｺｰｽ」・「Do for Others とﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・市民活動ｺｰｽ」・「多文化共生ｺｰｽ」・「持続可能な社会ｺｰｽ」）が設定されている。なお、詳細は教養教育ｾﾝﾀｰﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを参照すること。

⑧教育発達学科生については、明治学院共通科目の実習等の日程が学科科目のそれと重複した場合は学科科目を優先とし、学科科目の欠席事由として配慮しない。また、この場合、明治学院共通科目については履修削除とはしないので注意すること。

[科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞについて]

明治学院共通科目には科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞが付番される。その意味は下記のとおりとなる。

MG	+	●●●	+	1 ～ 3	+	0 ～ 9 + 1 ～ 9
固有記号		科目群の略称 (ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ3文字)		科目のレベル (百の位)		科目群内の連続番号 (十の位以下)

科目のﾚﾍﾞﾙについては、以下のとおりである。

1：基礎　2：応用　3:発展

ﾚﾍﾞﾙ2以上の科目を履修する場合は、その下位ﾚﾍﾞﾙの科目を履修または単位修得していることが望ましい。

科目例：MGCHR101 ｷﾘｽﾄ教の基礎A

MG	＋	CHR	＋	1	＋	01	＋	ｷﾘｽﾄ教の基礎A
固有記号		科目群の略称		レベル		連続番号		科目名

［必修科目］

必修および選択必修科目。以下の科目 1～3 について、それぞれ所定の単位を修得すること。

1. ［ｺｱ科目］

全学必修のｷﾘｽﾄ教関連科目。A･Bそれぞれ2単位、計4単位を修得しなければならない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCHR	101～102	ｷﾘｽﾄ教の基礎 A･B	1	各 2	1 年次

2. ［言語系科目群］

必修である英語科目と選択必修の初習語科目。

- **英語科目については、「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」1A・1B、2A・2Bそれぞれ各1単位、計4単位を修得しなければならない。**
- 初習語とは、ﾌﾗﾝｽ語、中国語、ﾄﾞｲﾂ語、ｽﾍﾟｲﾝ語、韓国語をいう。**いずれか1言語を選択し、その言語について1A・1B、2A・2Bの各1単位、計4単位を修得しなければならない。**可能な限り1年次での履修と単位修得が望ましい。
- 「日本語」1A･1B、2A･2Bは留学生のための必修外国語科目であり、一般学生は履修することができない。留学生は「日本語」1A･1B、2A･2B　4単位を必修とし、さらに日本語以外の言語（同一言語、ただし母語は除く）から4単位を必修とする。
- 原則として、入学時に選択した「初習語」は他の言語へ変更することはできない。ただし、特別の事情があり、ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ期間に申し出た者については、科目責任者が判断する。

言語系必修・選択必修科目

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGENG	101～104	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1A･1B･2A･2B	1	各 1	1 年次
MGFRE	101～104	ﾌﾗﾝｽ語 1A･1B･2A･2B	1	各 1	1 年次
MGCHN	101～104	中国語 1A･1B･2A･2B	1	各 1	1 年次
MGGER	101～104	ﾄﾞｲﾂ語 1A･1B･2A･2B	1	各 1	1 年次
MGSPN	101～104	ｽﾍﾟｲﾝ語 1A･1B･2A･2B	1	各 1	1 年次
MGKOR	101～104	韓国語 1A･1B･2A･2B	1	各 1	1 年次
MGJPN	101～104	日本語 1A･1B･2A･2B	1	各 1	1 年次

・英語以外の言語について、大学入学以前に既に学習している言語を選択する際には必ず教務課窓口に相談すること。

・相談の結果、許可された者は上記の言語 1A・1B・2A・2B ではなく、3A・3B・4A・4B を選択必修科目として履修することになる。

3. ［情報処理系科目］

ｺﾝﾋﾟｭｰﾀに関する選択必修科目。

・「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ」1は入門ｸﾗｽ、「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ」2は初級ｸﾗｽである。**学生は、自らの習熟度を判断して1または2を選択し、2単位を修得しなければならない。**なお、それぞれの授業内容については、ｼﾗﾊﾞｽを参照すること。

・入学時に中級以上の技能を有する学生については、情報処理系科目群「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究」1A･1B･2A･2Bから2単位を修得することにより、必修の2単位に振り替えることができる（ただし、教育発達学科生は除く）。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCOM	101～102	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ 1･2	1	各 2	1 年次

［選択科目］

以下の諸科目から自由に選択して履修することができる。多様な科目を選択してもよいし、同一分野の科目を集中的に選択してもよい。学生それぞれの関心に即して履修計画を立てることが可能である。

・各科目ごとの内容は、ｼﾗﾊﾞｽに（授業ﾃｰﾏを付して）公表される。履修に際してはそれらを参照すること。

・履修者数が制限されることがあるので、履修希望者はｼﾗﾊﾞｽを参照すること。

1.［言語系科目群］

※A･Bは独立した科目であるが、可能な限り同一曜時限の同一担当者のｸﾗｽを履修することとし、同一曜時限に複数ｸﾗｽが開講されている場合にも、いずれか1ｸﾗｽを定めて履修するものとする。

「○○語演習」

・必修科目として選択した初習語と同じ言語について、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力向上を目指す。

・この科目の単位修得をもって、初習語必修単位に振り替えることはできない。

・「○○語」3A・3B・4A・4Bを選択必修科目として履修を許可された者は、同一言語の「○○語演習初級」A・Bは履修できない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGFRE	111～112	ﾌﾗﾝｽ語演習初級 A･B	1	各 1	1 年次
	221～222	ﾌﾗﾝｽ語演習中級 A･B	2	各 1	1 年次
MGCHN	111～112	中国語演習初級 A･B	1	各 1	1 年次
	221～222	中国語演習中級 A･B	2	各 1	1 年次
MGGER	111～112	ﾄﾞｲﾂ語演習初級 A･B	1	各 1	1 年次
	221～222	ﾄﾞｲﾂ語演習中級 A･B	2	各 1	1 年次
MGSPN	111～112	ｽﾍﾟｲﾝ語演習初級 A･B	1	各 1	1 年次
	221～222	ｽﾍﾟｲﾝ語演習中級 A･B	2	各 1	1 年次
MGKOR	111～112	韓国語演習初級 A･B	1	各 1	1 年次
	221～222	韓国語演習中級 A･B	2	各 1	1 年次

「○○語研究」・「○○語特別研究」

・英語および必修科目で選択した初習語について、次年度以降も学修を継続することを希望する学生のためのｲﾝﾃﾝｼﾌﾞｸﾗｽである。「○○語研究」1A･1B、2A･2B、3A･3Bは2年次から、「○○語研究」4A･4Bは3年次以上から履修が可能となる。いずれも各学期2単位科目である。

・履修に際し一定の語学力が必要とされるため、「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」1A･1B、2A･2Bの計4単位を未修得の者が、以下の「英語研究」を履修することは望ましくない。また、「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」が必修ではない学生が履修を希望する場合は、初回の授業に必ず出席して履修許可を得ることが必要である。

・必修科目で選択した「初習語」1A･1B、2A･2Bの計4単位を未修得の者が、以下の「○○語研究」を履修することは望ましくない。

・「英語特別研究」A･Bは、1年次で「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」に加えてﾘﾃﾗｼｰ（読み・書き）を強化することを希望する学生のためのｲﾝﾃﾝｼﾌﾞｸﾗｽである（英文学科、国際学科、国際ｷｬﾘｱ学科を除く）。

・これらの科目の単位修得をもって、初習語必修単位に振り替えることはできない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGENG	201～202	英語特別研究 A・B	2	各 2	1 年次
	211～216	英語研究 1A・1B・2A・2B・3A・3B	2	各 2	2 年次
MGFRE	211～214	ﾌﾗﾝｽ語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	ﾌﾗﾝｽ語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	ﾌﾗﾝｽ語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次
MGCHN	211～214	中国語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	中国語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	中国語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次
MGGER	211～214	ﾄﾞｲﾂ語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	ﾄﾞｲﾂ語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	ﾄﾞｲﾂ語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次
MGSPN	211～214	ｽﾍﾟｲﾝ語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	ｽﾍﾟｲﾝ語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	ｽﾍﾟｲﾝ語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次
MGRUS	211～214	ﾛｼｱ語研究 1A・1B・2A・2B （注 1）	2	各 2	2 年次
	315～316	ﾛｼｱ語研究 3A・3B （注 1）	3	各 2	2 年次
	317～318	ﾛｼｱ語研究 4A・4B （注 1）	3	各 2	3 年次
MGKOR	211～214	韓国語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	韓国語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	韓国語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次

注 1：「ﾛｼｱ語研究」の履修を希望する者は教務課に申し出ること。

「〇〇語」3A・3B・4A・4B

・必修科目として選択した言語の既習者用のｲﾝﾃﾝｼﾌﾞｸﾗｽであり、国際学科生以外は自由に履修できない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGFRE	205～208	ﾌﾗﾝｽ語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次
MGCHN	205～208	中国語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次
MGGER	205～208	ﾄﾞｲﾂ語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次
MGSPN	205～208	ｽﾍﾟｲﾝ語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次
MGKOR	205～208	韓国語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次

「〇〇語の基礎」および西洋古典語研究

・必修および選択必修以外の言語について、基礎的な学修を希望する学生のためのｲﾝﾃﾝｼﾌﾞｸﾗｽである。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGITA	101～102	ｲﾀﾘｱ語の基礎 A・B	1	各 1	1 年次
MGARB	101～102	ｱﾗﾋﾞｱ語の基礎 A・B	1	各 1	1 年次
MGTHA	101～102	ﾀｲ語の基礎 A・B	1	各 1	1 年次
MGGRE	101～102	ｷﾞﾘｼｱ語研究 A・B	1	各 2	1 年次
MGLAT	101～102	ﾗﾃﾝ語研究 A・B	1	各 2	1 年次

手話

・手話の知識を学び、基本的な運用能力を身につける。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGSIG	101	手話 1	1	各 2	1 年次
	202	手話 2	2	各 2	1 年次

外国文化論科目

・それぞれの国の文化、社会について知識を深め、言語学習への興味を持たせるための入門的科目と、当該言語の資料にも触れながら、社会、文化についての知識を深める各論科目である。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGEUC	101～106	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化入門 1･2･3･4･5･6	1	各 2	1 年次
	111～116	ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化各論 1･2･3･4･5･6	1	各 2	1 年次
MGASC	101～104	ｱｼﾞｱ言語圏の文化入門 1･2･3･4	1	各 2	1 年次
	111～114	ｱｼﾞｱ言語圏の文化各論 1･2･3･4	1	各 2	1 年次

留学生関連科目

・以下は留学生のための科目であり、一般学生は履修できない。

・留学生の履修については、別途ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ等の説明を参照し、その指導に従うこと。

・「日本語研究」3A・3Bは、2年次生でも白金校舎での履修が可能である。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGJPN	205～208	日本語 3A･3B･4A･4B	2	各 1	2 年次
	211～216	日本語研究 1A･1B･2A･2B･3A･3B	2	各 2	2 年次

2. ［人文科学系科目群］

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCHR	201～204	聖書の世界 1･2･3･4	2	各 2	2 年次
	211～214	ｷﾘｽﾄ教の思想と文化 1･2･3･4	2	各 2	1 年次
	221～224	宗教史 1･2･3･4	2	各 2	1 年次
	231～234	現代社会とｷﾘｽﾄ教 1･2･3･4	2	各 2	1 年次
MGPHI	101～102	哲学史 1･2	1	各 2	1 年次
	201～202	哲学各論 1･2	2	各 2	1 年次
	211～212	科学思想 1･2	2	各 2	1 年次
MGETH	101～102	倫理学入門 1･2	1	各 2	1 年次
	201～204	倫理学各論 1･2･3･4	2	各 2	1 年次
MGLOG	101～102	論理学概論 1･2	1	各 2	1 年次
	201～202	伝統論理学 1･2	2	各 2	1 年次
	211～212	現代論理学 1･2	2	各 2	1 年次
MGLIN	101～104	言語科学の基礎 1･2･3･4	1	各 2	1 年次
MGPSY	101～102	心理学入門 1･2(注 2)	1	各 2	1 年次
	201～204	心理学各論 1･2･3･4(注 2)	2	各 2	2 年次
MGEDU	101～102	教育学の基礎 1･2	1	各 2	1 年次

MGART	101～102	芸術学の基礎 1･2	1	各 2	1 年次
	201～206	芸術学各論 1･2･3･4･5･6	2	各 2	1 年次
MGJPL	101～102	日本文学概論 1･2	1	各 2	1 年次
	201～204	日本文学講読 1･2･3･4	2	各 2	1 年次
MGJPS	101～104	日本文化論入門 1･2･3･4	1	各 2	1 年次
	201～202	日本文化特論 1･2	2	各 2	1 年次

※ 3 年次以上で「哲学（専）」1・2 を履修するためには、「MGPHI」（哲学）、「MGETH」（倫理学）、「MGLOG」（論理学）の中から、ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞのｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄが同一の 2 科目（計 4 単位）を修得済みでなければならない。

注 2：「心理学入門」1･2 および「心理学各論」1･2･3･4 は心理学科生は履修できない。なお、「心理学各論」1～4 を履修するためには、「心理学入門」1･2 の単位修得が望ましい。

3. ［社会科学系科目群］

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGLAW	101～102	法学(日本国憲法を含む) 1･2	1	各 2	1 年次
MGPOS	101～102	政治学 1･2	1	各 2	1 年次
MGSOC	101～102	社会学理論の基礎 1･2	1	各 2	1 年次
	111～112	文化とﾒﾃﾞｨｱの社会学入門 1･2	1	各 2	1 年次
	121～122	生命とｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨの社会学入門 1･2	1	各 2	1 年次
	131～132	環境とｺﾐｭﾆﾃｨの社会学入門 1･2	1	各 2	1 年次
MGSWS	101～102	社会福祉学 1･2	1	各 2	1 年次
MGECN	101～102	経済学 1･2	1	各 2	1 年次
MGSTA	101～104	統計学 1･2･3･4	1	各 2	1 年次
MGHIS	201～206	歴史学 1･2･3･4･5･6	2	各 2	1 年次
	211～212	歴史学の世界 1･2	2	各 2	1 年次
MGGEO	101～102	人文地理学入門 1･2	1	各 2	1 年次
	201～206	人文地理学 1･2･3･4･5･6	2	各 2	1 年次
MGANT	101～102	文化人類学入門 1･2	1	各 2	1 年次
	201～202	文化人類学各論 1･2	2	各 2	1 年次
MGSOS	101～104	社会科学概論 1･2･3･4	1	各 2	1 年次

4. ［自然科学系科目群］

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGMAT	101～102	数学入門 1･2	1	各 2	1 年次
	111～114	数学 1･2･3･4	1	各 2	1 年次
	211～212	数学特論 1･2	2	各 2	1 年次
MGPHY	101～103	物理学入門 1･2･3	1	各 2	1 年次
	201～203	現代の物理学 1･2･3	2	各 2	1 年次
	211	物理学特論	2	各 2	1 年次
	121～122	物理学方法論 A･B	1	各 2	1 年次
MGCHE	101～102	化学入門 1･2	1	各 2	1 年次
	201～204	現代の化学 1･2･3･4	2	各 2	1 年次
	121～122	化学方法論 A･B	1	各 2	1 年次
MGBIO	101～102	生物学入門 1･2	1	各 2	1 年次
	201～205	現代の生物学 1･2･3･4･5	2	各 2	1 年次

MGBIO	211	生物学特論	2	各 2	1 年次
	121～122	生物学方法論 A･B	1	各 2	1 年次
MGLIS	101～102	生命科学入門 1･2	1	各 2	1 年次
MGLIS	201～203	生命科学各論 1･2･3	2	各 2	1 年次
	211	生命科学特論	2	各 2	1 年次
	121～122	生命科学方法論 A･B	1	各 2	1 年次

5. ［情報処理系科目群］

・以下は「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ」1および2の発展的学修科目である。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCOM	201～204	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究 1A･1B･2A･2B	2	各 2	1 年次
	211～214	情報科学 1･2･3･4	2	各 2	1 年次

6. ［健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学系科目群］

・履修に際しては、ｼﾗﾊﾞｽ、『明治学院共通科目~~―健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学系科目~~履修の手引き』を参照すること。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGHSS	101～102	健康科学概論 1･2	1	各 2	1 年次
	111～112	ｽﾎﾟｰﾂ科学概論 1･2	1	各 2	1 年次
	121～122	ｽﾎﾟｰﾂ社会学概論 1･2	1	各 2	1 年次
	131～134	ｽﾎﾟｰﾂ方法学 1･2･3･4	1	各 2	1 年次
	201～202	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学理論･実習 1･2	2	各 2	1 年次
	211～212	ﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ理論･実習 1･2	2	各 2	1 年次
	141･143･145	ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究 1A･2A･3A	1	各 2	1 年次
	242･244･246	ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究 1B･2B･3B	2	各 2	1 年次

7. ［総合教育系科目群］

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGIND	101～106	現代世界と人間 1･2･3･4･5･6	1	各 2	1 年次
	111～112	現代社会と教養 1･2	1	各 2	1 年次
	121～122	多文化共生入門 1･2	1	各 2	1 年次
	201～204	多文化共生各論 1･2･3･4	2	各 2	1 年次
	131～132	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ入門 1･2	1	各 2	1 年次
	211～214	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ各論 1･2･3･4	2	各 2	1 年次
	141～143	現代平和研究 1･2･3	1	各 2	1 年次
	221～224	ｽﾀﾃﾞｨｰﾂｱｰ 1･2･3･4（注 3）	2	各 2	1 年次
MGMGS	101	明治学院研究 1	1	各 2	1 年次
	202～203	明治学院研究 2･3	2	各 2	1 年次
MGENV	101～104	環境学各論 1･2･3･4	1	各 2	1 年次
MGSUS	101～104	ｻｽﾃｲﾅﾋﾞﾘﾃｨｰ学 1･2･3･4	1	各 2	1 年次

MGVOL	101～104	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学入門 1･2･3･4	1	各 2	1 年次
	111～112	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ社会と市民活動入門 1･2	1	各 2	1 年次
	201～202	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ社会と市民活動 1･2	2	各 2	1 年次
	121	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動論（国内）1A	1	各 2	1 年次
MGVOL	122	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動論（海外）2A	1	各 2	1 年次
	223	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動論（国内）1B	2	各 2	1 年次
	224	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動論（海外）2B	2	各 2	2 年次
	231	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動実習（国内）	2	各 2	1 年次
	232	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動実習（海外）	2	各 2	2 年次
	301	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動研究（国内）	3	各 2	2 年次
	302	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･市民活動研究（海外）	3	各 2	2 年次
MGACW	101	ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ﾗｲﾃｨﾝｸﾞの基礎	1	各 2	1 年次
	201	ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ演習 1	2	各 2	1 年次
MGLCD	101	ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ 1	1	各 2	1 年次
	202	ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ 2	2	各 2	2 年次
	203～204	ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ 3･4	2	各 2	3 年次
	111	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ 1	1	各 2	2 年次
	212	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ 2	2	各 2	2 年次
MGSEM	301～302	ｱｼﾞｱ･日本研究 A･B	3	各 2	3 年次
	311～312	ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化圏研究 A･B	3	各 2	3 年次
	321～322	現代科学研究 A･B	3	各 2	3 年次
	331～332	現代社会研究 A･B	3	各 2	3 年次
MGPIO	101	ｵﾙｶﾞﾝ実習 1（注 4）	1	各 2	2 年次
	202	ｵﾙｶﾞﾝ実習 2（注 4）	2	各 2	2 年次
MGINT	201～206	Japanese Arts and Culture 1･2･3･4･5･6	2	各 2	1 年次
	211～216	Japanese History 1･2･3･4･5･6	2	各 2	1 年次
	221～226	Japanese Society 1･2･3･4･5･6	2	各 2	1 年次
	231～234	Multilingualism and Multiculturalism 1･2･3･4	2	各 2	1 年次
	241～244	Current Issues 1･2･3･4	2	各 2	1 年次
MGCCS	111～112	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究 A･B（注 5）	1	各 2	1 年次

注 3：「ｽﾀﾃﾞｨｰﾂｱｰ」1･2･3･4 は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれない。

注 4：「ｵﾙｶﾞﾝ実習」1･2 は実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態について特別な条件が付されている 。

注 5：この科目は、「日本の社会と文化 」1A・1B・2A・2B・3A・3B において、留学生の授業に一般学生が参加するために設けられた科目である。この科目の履修資格と履修上の要件については、ｼﾗﾊﾞｽを参照す ること。

留学生関連科目

・以下は留学生のための科目であり、一般学生は履修できない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCCS	101～106	日本の社会と文化 1A･1B･2A･2B･3A･3B	1	各 2	1 年次
MGACW	202	ｱｶﾃﾞﾐｯｸ･ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ演習 2（留学生専用）	2	各 2	1 年次

8. ［特別学科科目］

・学科によっては、(注 6)に記載された資格の要件単位となる。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
		社会学概論 A･B		各 2	1 年次

注 6：中学（社会）、高校（公民）教育職員免許状取得のために履修する場合は、「教職課程履修要項（諸資格）」も参照すること。

［単位認定用科目］

以下の諸科目は、授業として行われる科目ではなく、留学やｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ等が実施された後に、本学の単位として認定するための科目である。予め履修登録をすることはできないので注意すること。

1. ［短期留学認定科目］

・以下は、本学と協定を結ぶ海外校への短期留学について、本学が単位を認定するための科目である。短期留学を行った者以外が単位を修得することはできない。
・留学先によって別途配当年次が定められている場合があるので、必ず「留学ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ」を確認すること。
・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGRES	101	ﾖｰﾛｯﾊﾟ研究（短期留学）	1	各 4	1 年次
	102	ｲｷﾞﾘｽ研究（短期留学）	1	各 4	1 年次
	103	ｽﾍﾟｲﾝ研究（短期留学）	1	各 4	1 年次
	104	ﾄﾞｲﾂ研究（短期留学）	1	各 4	1 年次
	105	ﾌﾗﾝｽ研究（短期留学）	1	各 4	1 年次
	106	ｱﾒﾘｶ研究（短期留学）	1	各 4	1 年次
	107	ｶﾅﾀﾞ研究（短期留学）	1	各 4	1 年次
	108	韓国研究（短期留学）	1	各 4	1 年次
MGRES	109	中国研究（短期留学）	1	各 4	1 年次
	110	ｵｾｱﾆｱ研究（短期留学）	1	各 4	1 年次
	111	東南ｱｼﾞｱ研究（短期留学）	1	各 4	1 年次

2. ［海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ関連科目］

・以下は、学生が参加した各種の海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟについて、本学が単位を認定するための科目である。海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ参加の例としては、「国連ﾕｰｽﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ」などがあるが、詳細は国際ｾﾝﾀｰ等の発信する掲示を参照すること。
・実際に海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟに参加することが決まった段階で教務課窓口に相談し、単位認定を希望する者は、科目責任者の許可を得ること。
・すべての海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟが単位認定の対象となるわけではない点に留意すること。
・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ先によって別途配当年次が決められている場合があるので、必ず出願時に確認すること。
・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれない。
・これらの科目はP・F評価となるため、GPAには含まれない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGITS	101～102	海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ課題研究 A・B	1	各 2	1 年次
	201～202	海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ A・B	2	各 4	1 年次

教育発達学科

《心　理　学　部》

人材養成上の目的・教育目標

心理学部は、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、心理学部の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

心理学部は“Do for Others”の精神のもと、「こころを探り、人を支える」を教育理念として、現代社会で多くの人が遭遇するさまざまな問題に対して支援することができる「心理支援力のある人材の育成」を人材養成上の目的とする。心理学の基礎を習得し、科学的方法論ならびに関連諸科学の学修と実践を通じて、行動を分析し理解する能力を修得し、その上で、各自の専門分野に応じ、生涯発達の諸段階において他者を理解し支援する力を身につけることを教育目標とする。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学部は、明治学院大学の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、心理学部の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに所定の単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

1　グローバルな現代社会で人々が遭遇するさまざまな問題に対し、心理学または教育発達学的関心・理解を示し、それらへの積極的取り組みの姿勢を有している。
2　心理学の基礎を修得し、こころのメカニズムの理解のための科学的方法と実践的能力を身につけている。
3　自己理解をもとに、生涯発達の諸段階において他者を理解し、支援できる「心理支援力」を身につけている。
4　自分の個性をふまえ、キャリア発達における課題に対処する力を身につけている。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学部は、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、心理学部の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

1　心理学部の教育理念「こころを探り、人を支える」の意義を理解し、現代社会が提示する多様な問題に積極的に取り組む姿勢を養うため、自己理解力、他者理解力、関係性理解力、問題解決能力などを培うことを教育課程編成の方針とする。
2　学年進行に応じて基礎から専門へ段階的に配置された、心理学あるいは教育発達学に関する多くの専門科目の講義、実習や体験学習、少人数による演習および卒業研究等の諸科目の学修を通じて、上記「１」の力を学生が身につけられるよう教育課程を編成し実施する。
3　学修成果は、当該科目の学修目標の達成度を試験、レポート、発表、作品などにより担当教員が評価する。評価基準はそれぞれの科目のシラバスに明示する。

■教 育 発 達 学 科

人材養成上の目的・教育目標

心理学部教育発達学科は、心理学部の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、教育発達学科の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

教育発達学科が目指すものは、「教育発達学の視点からの教育実践力、および発達支援力のある人材の養成」である。「教育発達学」は、発達や障害に関するメカニズムの理解を基礎とした上で、系統的な教育システムのあり方について分析的・科学的に探求する教育学、心理学、障害科学を融合した学問である。そこで本学科では、人間の生活全体を視野に入れ、教育発達学を基礎として、多様な現場での体験活動を通して、生涯発達における学校との接点を実践的に学び、現代の子どもをめぐる心理的課題に適切に対処できる教育の原理と方法を学修し、学校教育や生涯学習の場における高い教育実践力、および発達支援力を身につけることを目指している。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学部教育発達学科は、心理学部の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、教育発達学科の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに 124 単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

1　自己理解力、自己コントロール力、他者理解力、関係形成力、他者支援力からなる心理支援力を身につけている。
2　幅広い教養と生涯発達プロセスや障害に関する十分な知識を持ち、それを子ども支援に活用できる発達支援力を身につけている。
3　生涯発達における学校との接点を実践的に理解し、有効な教育方法について分析的・科学的に探求し、コーディネートする教育実践力を身につけている。
4　子どもや保護者に適切に対応するために学んできた事柄を総合的に活用し、自主的に学び続ける姿勢を身につけている。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学部教育発達学科は、心理学部の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、教育発達学科の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

1　教育発達学について理解し、心理支援力、発達支援力、教育実践力の 3 つの力を身に付け、現代の子どもをめぐる心理的課題に適切に対処できる原理と方法を修得するために、学科基幹科目を 4 年間を通じて配置する。
2　学校教育における教育実践力の基礎を身に付けるため、教職基礎科目を配置する。また、教科専門及び教科指導などに関する実践力を身に付けるために教職専門科目を配置する。

3　生涯発達における初等教育段階の位置づけについて実践的に学ぶために、大学内における教育活動とあわせて、学外での現場における体験的な活動を重視し、4年間を通した循環型教育システムを導入する。

4　高い専門性を有するために、現代の子どもをめぐる諸課題に関する下記の３つの履修コースを設定し、これに応じた探究科目を配置する。

・児童発達コース：幼児期から児童期にかけての子どもに焦点を当て、その発達的特徴を理解し、生活や学習における諸課題への対応を支援する力を育成する。

・特別支援コース：共生社会の理解を基礎に、特別な支援を必要とする子どもとその家族に焦点を当て、子どものニーズに応じた支援をする力を育成する。

・国際教育コース：多文化環境における子どもの発達や心理に関する理解を基礎に、国際化が進む学校や地域、社会の多文化共生に向けて実践する力を育成する。

5　明治学院共通科目と教育発達学科科目、他学科科目を配置し、豊かな人間性と幅広い視野を養う。

6　学習成果の評価にあたっては、明確な成績評価基準を策定し、学生に提示する。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連表（能力要件表）

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー		教育発達学科2	教育発達学科2・3	教育発達学科4	教育発達学科1	教育発達学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力		幅広い教養と生涯発達に関する十分な知識	発達支援力、教育実践力	自主的に学び続ける姿勢	心理支援力	学習成果を総合的に活用し、学び続ける姿勢
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝〇				
（1）学科基幹科目						
教育発達学概論A	1		〇	◎	〇	〇
教育発達学概論B	1	〇		◎		〇
教育発達学方法論（体験活動）A	2		◎	〇	〇	〇
教育発達学方法論（体験活動）B	2		◎	〇	〇	〇
教育発達学演習A	3		〇	〇		◎
教育発達学演習B	3		〇	〇		◎
教育発達学演習C	4		〇	〇		◎
教育発達学演習D	4		〇	〇		◎
（2）基礎科目						
心理学総論	1	◎	〇	〇	〇	
教育原論	1	◎		〇	〇	〇
国語	1	◎	〇	〇		〇
特別支援教育論	1	〇	◎	〇	〇	
多文化共生教育	1	◎	〇	〇	〇	
教育心理学	1		◎	〇	〇	
生涯発達心理学（乳幼児・児童）	2	◎	〇		〇	〇
算数	2	◎	〇			
障害児･者心理学（コミュニケーション）	2	◎	〇	〇	〇	
障害児･者心理学（学習）	2	◎	〇	〇	〇	
（3）教職基礎科目						
教職概論	1		〇			◎
教育方法論	1		◎	〇		〇
教育の制度と経営	2		〇			◎
教育課程編成論	2	◎	〇			〇
生徒･進路指導の理論と方法	3	〇	〇		◎	〇
教育相談の理論と方法	3	〇	◎		〇	
（4）探究科目						

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー		教育発達学科2	教育発達学科2・3	教育発達学科4	教育発達学科1	教育発達学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力		幅広い教養と生涯発達に関する十分な知識	発達支援力、教育実践力	自主的に学び続ける姿勢	心理支援力	学習成果を総合的に活用し、学び続ける姿勢
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
子どもの人権と社会	~~4~~ 3		○	○	○	◎
（5）教職専門科目						
理科	1	◎	○	○		○
生活	1		◎	○		○
音楽	1		○	◎	○	
図画工作	1	◎	○	○		○

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性		統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー		教育発達学科2	教育発達学科2・3	教育発達学科4	教育発達学科1	教育発達学科4
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力		幅広い教養と生涯発達に関する十分な知識	発達支援力、教育実践力	自主的に学び続ける姿勢	心理支援力	学習成果を総合的に活用し、学び続ける姿勢
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力＝○				
社会	2	◎	○	○		○
家庭	2	◎	○	○	○	
体育	2	◎	○			
外国語	2	◎	○	○		
理科指導法	2	○	◎	○		○
生活科指導法	2	○	◎	○		○
図画工作科指導法	2	○	◎	○		○
家庭科指導法	2	○	◎	○		○
体育科指導法	2	◎	○			
総合的な学習の時間の指導法	2	○	◎	○		○
特別活動の指導法	2	○	◎	○		○
国語科指導法	3	○	◎	○		○
社会科指導法	3		◎	○	○	○
算数科指導法	3	○	◎	○		○
音楽科指導法	3		○	◎	○	○
外国語（英語）指導法	3	○	◎	○		○
道徳教育の理論と方法	3		○	○	○	◎
教育実習1	4		◎	○		○
教職実践演習（幼･小）	4		◎	○		
（6）応用科目						
特別支援臨床基礎実習A	3		◎		○	○
特別支援臨床基礎実習B	3		◎		○	○
特別支援臨床実習A	4		◎		○	○
特別支援臨床実習B	4		◎		○	○
保育内容研究	3			○	○	◎
小学校教育授業研究	3		○	○	○	◎
特別支援教育授業研究	3		◎			○
多文化社会教育実習	3	○	○		○	◎
教育実習2	4		○	○	○	◎
特別支援学校教育実習	4		◎		○	○
多文化社会教育課題研究	4	○	○		○	◎
（7）卒業研究						
卒業研究	4		○	○		◎
（8）心理学部開放科目						
社会・集団・家族心理学Ⅰ	2	◎	○	○	○	
神経・生理心理学	2	◎	○	○	○	
知覚・認知心理学	2	◎	○	○	○	
臨床心理学概論	2	◎	○	○	○	
人体の構造と機能及び疾病	2	◎	○	○	○	
グループアプローチ	3	◎	○	○	○	
社会・集団・家族心理学Ⅱ	3	◎	○	○	○	
健康・医療心理学	4	◎	○	○	○	
（9）短期留学認定科目						
TESOL Seminar（短期留学）	1	○	◎			○

教 育 発 達 学 科

（履修の方法）

教育の方針―教育発達学科は、次の諸点を教育の基本方針としている。

（1）「こころを探り、人を支える」という心理学部の教育理念のもとに、学科科目の必修科目や選択科目を通して、子どもの発達を心理学の側面、教育学（初等教育）の側面、および障害科学の側面から理解し、実際に支援することができるようになることを目指している。
（2）学科科目は、学科基幹科目、基礎科目、教職基礎科目、探究科目、教職専門科目、応用科目、卒業研究、心理学部開放科目から構成される。また、実習や演習といった多様な授業形態を通して、体験的学修を重視している。
（3）学内における学修だけでなく、学外の現場における体験活動を必修とした循環型教育システムを通して、様々な支援ニーズへの対応を具体的に実践的に学修していくことを目指している。
（4）こうした 4 年間にわたる学修を通して、子どもを理解し、支え得るように、①心理支援力、②発達支援力、③教育実践力を修得することを目指している。

〔1〕教育発達学科カリキュラムの概要

1．教育発達学科のカリキュラムは、明治学院共通科目、教育発達学科科目及び心理学部開放科目から構成されている。明治学院共通科目については、『明治学院共通科目』を参照すること。

2．教育発達学科科目の概要

学科科目は、学科基幹科目、基礎科目、教職基礎科目、探究科目、教職専門科目、応用科目、卒業研究、心理学部開放科目から構成される。

授業形態として、

（1）講義
（2）実技・実験
（3）実習
（4）演習

がある。

〔２〕卒業に必要な単位数および各コースで履修する単位数

部　門		卒業に必要な単位（注 1）（注 2）		
		児童発達コース	特別支援コース	国際教育コース
明治学院共通科目	キリスト教の基礎	4	4	4
	英語	4	4	4
	初習語	4	4	4
	情報処理系科目	2	2	2
学科科目	学科基幹科目	10	10	10
	基礎科目	20	20	20
	教職基礎科目	6	6	6
	探究科目	22	18	20～24
	教職専門科目	0	0	0
	応用科目	0	4	0～4
選択科目（注 3）（注 4）		52	52	50
計		124	124	124

（注1）2年次より「児童発達コース」「特別支援コース」「国際教育コース」に分かれる。

（注2）各コ―スで取得可能な教員免許状は異なる。教員免許状を取得する場合、免許の種類ごとに必要な科目を履修する必要がある。詳細は、P.93～P.112を参照すること。

（注3）選択科目は、明治学院共通科目（10単位を上限）・学科科目・心理学部開放科目・短期留学認定科目から、各コースの必修科目と選択必修科目に加えて修得すること。

（注4）明治学院共通科目のうち、初習語4単位、情報処理系科目2単位を超過して修得した場合は、選択科目に算入される。

（注5）各コースの選択必修の履修の仕方によって、単位数が変わる場合がある。

〔３〕年間履修制限単位数

・1 年間に履修できる単位数は 47 単位である。

但し、他学科聴講により中学校教諭二種免許状（英語）を取得する場合、指定された科目について年間 16 単位を限度として、上記 47 単位に加えて履修することができる。

〔４〕履修中止除外科目について

学修の手引き「履修　7. 履修中止制度」で履修中止ができない科目としている必修科目、予備登録科目、教育実習等に加えて、教育発達学科における「(g)各学科において定めている履修中止の申請ができない科目」は、以下のとおりである。

・情報処理系科目

・各コースの必修科目

〔５〕コース変更

原則としてコース変更はできない。どうしても変更したい場合、春と秋学期の個別面談などを活用しクラスアドバイザーに相談し、２年次に所定の手続きをとる。３年次以降のコース変更受付は行わない。

〔６〕再試験

卒業年次生で、卒業に必要な単位数を修得していない場合、卒業研究以外の心理学部開放科目および学科科目で当該年度のD評価の科目を対象として、3科目6単位を上限として再試験の機会を設ける。該当者の発表は3月の卒業者の発表と同時に行い、試験は3月に実施する。ただし、9月卒業申請者に対する再試験は実施しない。

〔７〕学科科目

＊を付した科目は必修科目である。また、アルファベットの記号を付した科目は選択必修科目である。コースにより必修、選択必修の扱いが異なるものがある。必修科目は必ず配当年次に履修すること。

（1）学科基幹科目

配当年次	児童発達	特別支援	国際教育	科　目　名	単位数	開講期間	備考
1	＊	＊	＊	教育発達学概論 A	2	半期	
1	＊	＊	＊	教育発達学概論 B	2	半期	
2	＊	＊	＊	教育発達学方法論（体験活動）A	1	半期	
2	＊	＊	＊	教育発達学方法論（体験活動）B	1	半期	注 1
3	＊	＊	＊	教育発達学演習 A	1	半期	注 2
3	＊	＊	＊	教育発達学演習 B	1	半期	
4	＊	＊	＊	教育発達学演習 C	1	半期	
4	＊	＊	＊	教育発達学演習 D	1	半期	

（注 1）「教育発達学方法論（体験活動）B」を履修するには、「教育発達学方法論（体験活動）A」の単位を修得していなければならない。

（注 2）① 2年秋学期に「教育発達学演習A～D」の履修に関する説明会を実施する。

②「教育発達学演習C」を履修するには、「教育発達学演習A」の単位を修得していなければならない。また、「教育発達学演習D」を履修するには、「教育発達学演習B」の単位を修得していなければならない。

（2）基礎科目

配当年次	児童発達	特別支援	国際教育	科　目　名	単位数	開講期間	備考
1	＊	＊	＊	心理学総論	2	半期	
1	＊	＊	＊	教育原論	2	半期	
1	＊	＊	＊	国語	2	半期	
1	＊	＊	＊	特別支援教育論	2	半期	
1	＊	＊	＊	多文化共生教育	2	半期	
1	＊	＊	＊	教育心理学	2	半期	
2	＊	＊	＊	生涯発達心理学（乳幼児・児童）	2	半期	
2	＊	＊	＊	算数	2	半期	
2	＊	＊	＊	障害児・者心理学（コミュニケーション）	2	半期	
2	＊	＊	＊	障害児・者心理学（学習）	2	半期	

（3）教職基礎科目

配当年次	児童発達	特別支援	国際教育	科　目　名	単位数	開講期間	備考
1	A	A	A	教職概論	2	半期	注 3
1	A	A	A	教育方法論	2	半期	
2	A	A	A	教育の制度と経営	2	半期	
2	A	A	A	教育課程編成論	2	半期	
3	A	A	A	生徒・進路指導の理論と方法	2	半期	
3	A	A	A	教育相談の理論と方法	2	半期	

（注 3）児童発達コース、特別支援コース、国際教育コースは、A の 6 科目のうち、3 科目 6 単位を選択必修とする。

（4）探究科目

配当年次	児童発達	特別支援	国際教育	科　目　名	単位数	開講期間	備考
2	＊	H		子どもの学習支援の心理学	2	半期	注 10
2	＊	H		子どもと家族支援の心理学	2	半期	
3				生涯発達心理学（青年・成人・老年）	2	半期	注 4 注 5 注 11 注 12
2	B	＊		特別支援教育学総論	2	半期	
2	B	＊		知的障害の病理	2	半期	
3	B	＊		障害児教育相談とアセスメント	2	半期	
2	C	I		視覚障害教育総論	2	半期	
2	C	I		聴覚障害教育総論	2	半期	
3	C	J		知的障害者教育課程論	2	半期	
3	C	J		知的障害者指導論	2	半期	
3	C	J		知的障害教育学総論	2	半期	
3	C	J		肢体不自由者教育論	2	半期	
1				日本国憲法	2	半期	

2	D			音楽実技 1	1	半期	注 6
2				音楽実技 2	1	半期	
2	*			保育内容総論	2	半期	
2	D			保育内容（健康）	2	半期	注 6
2	D			理数遊論	2	半期	
2			M	実践英語コミュニケーション 1A	2	半期	注 15
2			M	実践英語コミュニケーション 1B	2	半期	
2	E		*	外国人児童・海外帰国児童教育概論	2	半期	注 7
2			*	生涯学習概論 A	2	半期	
2			N	生涯学習概論 B	2	半期	注 16
2			N	多文化支援心理学	2	半期	
3	F			教育発達学研究法	2	半期	注 8
3	F			心理検査法	2	半期	
3	F			個別支援論	2	半期	
3				保育内容（環境）	2	半期	
3	D			保育内容（人間関係）	2	半期	注 6
3	D			保育内容（言葉）	2	半期	
3				保育内容（音楽表現）	2	半期	
3				保育内容（造形表現）	2	半期	
3				幼児理解の理論と方法	2	半期	
3				学校経営と学校図書館	2	半期	
3				学校図書館メディアの構成	2	半期	
3				学習指導と学校図書館	2	半期	
3	G			読書と豊かな人間性	2	半期	注 9
3	G			情報メディアの活用	2	半期	
3		K		肢体不自由の心理・生理・病理	2	半期	注 13
3		K		病弱の心理・生理・病理	2	半期	
3		K		病弱教育総論	2	半期	
3		L		子ども家庭福祉	2	半期	注 14
3		L		リハビリテーション論	2	半期	
3				障害者と就労	2	半期	
3				通級指導の実際	2	半期	
3			M	実践英語コミュニケーション 2A	2	半期	注 15
3			M	実践英語コミュニケーション 2B	2	半期	
3	E		N	多文化と子どもの発達	2	半期	注 7 注 16
3	E		N	子どもの生活・文化（中南米）	2	半期	
3	E		N	子どもの生活・文化（アジア）	2	半期	
3			N	外国人児童・海外帰国児童教育特論	2	半期	
3	E		*	教育の国際比較	2	半期	
3	E		*	国際教育論	2	半期	
3			N	生涯学習支援論 A	2	半期	
3			N	生涯学習支援論 B	2	半期	
3			N	社会教育経営論 A	2	半期	
3			N	社会教育経営論 B	2	半期	
4				音楽実技 3	1	半期	
3			M	実践英語コミュニケーション 3A	2	半期	注 15
3			M	実践英語コミュニケーション 3B	2	半期	
~~4~~3	E		N	子どもの人権と社会	2	半期	注 7・注 16

（注 4） 児童発達コースは、Ｂの３科目のうち、１科目２単位を選択必修とする。
（注 5） 児童発達コースは、Ｃの６科目のうち、２科目４単位を選択必修とする。
（注 6） 児童発達コースは、Ｄの５科目のうち、１科目２単位以上を選択必修とする。
（注 7） 児童発達コースは、Ｅの７科目のうち、２科目４単位を選択必修とする。
（注 8） 児童発達コースは、Ｆの３科目のうち、１科目２単位を選択必修とする。
（注 9） 児童発達コースは、Ｇの２科目のうち、１科目２単位を選択必修とする。
（注 10） 特別支援コースは、Ｈの２科目のうち、１科目２単位を選択必修とする。
（注 11） 特別支援コースは、Ｉの２科目のうち、１科目２単位を選択必修とする。
（注 12） 特別支援コースは、Ｊの４科目のうち、２科目４単位を選択必修とする。
（注 13） 特別支援コースは、Ｋの３科目のうち、１科目２単位を選択必修とする。
（注 14） 特別支援コースは、Ｌの２科目のうち、１科目２単位を選択必修とする。
（注 15） 国際教育コースは、Ｍの６科目のうち、４科目８単位を選択必修とする。
なお、実践英語コミュニケーション 3A・3B は国際教育コースの学生しか履修できない。
（注 16） 国際教育コースは、Ｎの 13 科目のうち、４科目８単位を選択必修とする。

（5）教職専門科目

配当年次	児童発達	特別支援	国際教育	科　目　名	単位数	開講期間	備考
1				理科	2	半期	
1				生活	2	半期	
1				音楽	2	半期	
1				図画工作	2	半期	
2				社会	2	半期	
2				家庭	2	半期	
2				体育	2	半期	
2				外国語	2	半期	
2				理科指導法	2	半期	
2				生活科指導法	2	半期	
2				図画工作科指導法	2	半期	
2				家庭科指導法	2	半期	
2				体育科指導法	2	半期	
2				総合的な学習の時間の指導法	2	半期	
2				特別活動の指導法	2	半期	
3				国語科指導法	2	半期	
3				社会科指導法	2	半期	
3				算数科指導法	2	半期	
3				音楽科指導法	2	半期	
3				外国語（英語）指導法	2	半期	
3				道徳教育の理論と方法	2	半期	
4				教育実習１	5	通年	注 21
4				教職実践演習（幼・小）	2	半期	注 17

（注 17）「教職実践演習（幼・小）」を履修するには、「教育実習 1」、「教育実習 2」のいずれかを履修中、または修得済みでなければならない。

（6）応用科目

配当年次	児童発達	特別支援	国際教育	科　目　名	単位数	開講期間	備考
3		＊		特別支援臨床基礎実習 A	2	半期	注 18
3		＊		特別支援臨床基礎実習 B	2	半期	
4				特別支援臨床実習 A	2	半期	
4				特別支援臨床実習 B	2	半期	
3				保育内容研究	1	半期	
3				小学校教育授業研究	1	半期	
3				特別支援教育授業研究	1	半期	注 19
3			N	多文化社会教育実習	2	通年	注 16・注 20
4				教育実習 2	5	通年	注 21
4				特別支援学校教育実習	3	通年	
4			N	多文化社会教育課題研究	2	半期	注 16

（注18）①「特別支援臨床基礎実習B」を履修するには、「特別支援臨床基礎実習A」の単位を修得していなければならない。

②「特別支援臨床実習B」を履修するには、「特別支援臨床実習A」の単位を修得していなければならない。

③「特別支援臨床実習A」を履修するには、「特別支援臨床基礎実習A・B」の単位を修得していなければならない。

④「特別支援臨床基礎実習A・B」、「特別支援臨床実習A・B」は、2時限連続で開講される。

（注19）「特別支援教育授業研究」は、翌年度に「特別支援学校教育実習」を履修する予定の学生のみ履修することができる。

（注20）「多文化社会教育実習」を履修するには、以下の3科目の単位を修得していなければならない。

①「多文化共生教育」1科目2単位

②「生涯学習概論A」、「生涯学習概論B」のうち、いずれか1科目2単位

③「教育の制度と経営」、「教育心理学」、「教育課程編成論」のうち、いずれか1科目2単位

（注21）①「教育実習1」は小学校教諭免許状取得のための科目である。

②「教育実習2」は幼稚園教諭免許状取得のための科目である。

③「特別支援学校教育実習」は特別支援学校教諭免許状取得のための科目である。

④これらの科目の履修については、P.99～P.103で詳しく説明する。履修前提条件を十分に確認すること。

（7）卒業研究

配当年次	児童発達	特別支援	国際教育	科　目　名	単位数	開講期間	備考
4				卒業研究	6	通年	注 22

（注22）①「卒業研究」は、同じ担当教員の「教育発達学演習C・D」と同一年度に履修すること。また、事前に担当教員の許可を得なければならない。論文の場合は、12,000字以上であることを原則とする。履修予定者は、履修登録期間内に必ず各自履修登録すること。

② 音楽の演奏または図画工作の製作によって「卒業研究」を履修する場合は、3,000字以上の副論文を提出するものとする。

（8）心理学部開放科目

配当年次	児童発達	特別支援	国際教育	科　目　名	単位数	開講期間	備考
2				社会・集団・家族心理学Ⅰ	2	半期	
2				神経・生理心理学	2	半期	
2				知覚・認知心理学	2	半期	
2				臨床心理学概論	2	半期	
2				人体の構造と機能及び疾病	2	半期	
3				グループアプローチ	2	半期	
3				社会・集団・家族心理学Ⅱ	2	半期	
4				健康・医療心理学	2	半期	

（9）短期留学認定科目

配当年次	児童発達	特別支援	国際教育	科　目　名	単位数	開講期間	備考
1				TESOL Seminar（短期留学）	~~4~~ 2		注 23

（注 23）　「TESOL Seminar（短期留学）」は、ハワイ大学マノア校での TEFL 短期留学プログラムについて、本学が単位を認定するための科目である。当該プログラムに参加した者以外が単位を修得することはできない。詳細は、必ず「留学ハンドブック」を確認すること。また、この科目は教育発達学科が定める年間履修単位数の上限には含まれない。

〔8〕卒業研究未提出者・不合格者の 9 月卒業について

・在学5年目以上の学生が、下記条件を満たしている場合、9月卒業の申請科目に「卒業研究」を含めることができる。

① 前年度までに「教育発達学演習A～D」の単位を修得済であること。

② 前年度までに得た「卒業研究」の評価が「D」（提出したが不合格）または「N」（未提出）であること。

③ 前年度までに「卒業研究」の指導を1年以上受けていること。

④ 卒業希望年度に「卒業研究」と春学期科目の履修で卒業見込みが立つこと。

⑤ 卒業研究指導担当者（それが不可能の場合は学科主任）に9月卒業を前提とした卒業研究履修者として、履修の許可を得ていること。

・申請者は、卒業研究を7月第一火曜日または水曜日に教務課へ提出し、審査のうえ合格した場合、春学期末に単位を修得できる。

・上記期日に未提出または審査結果が不合格の場合、3月卒業予定の学生と同じ1月の期日に改めて提出することで、3月卒業の可能性がある。

・卒業研究を上記期日に提出し審査に合格した場合でも、他の卒業要件単位が春学期末に未修得ならば、卒業研究は年度末に単位を修得することになる。

・希望者は、教務課指定の履修許可書に卒業研究指導担当者の署名と捺印を受け、他の申請書類と併せて教務課に提出すること。

〔9〕各コースで取得可能な教員免許状

コースと教員免許状のつながり

2年次より「児童発達コース」「特別支援コース」「国際教育コース」の3つのコースに分かれる。各コースでは、以下の教員免許状が取得可能である。

なお、履修コースの選択について、1年春学期と秋学期に説明会を実施する。

	児童発達コース	特別支援コース	国際教育コース
小学校教諭一種免許状	○	○	○
幼稚園教諭一種免許状	○		
小学校教諭一種免許状（主）＋ 幼稚園教諭一種免許状	○		
幼稚園教諭一種免許状（主）＋ 小学校教諭一種免許状	○		
小学校教諭一種免許状　＋ 特別支援学校教諭一種免許状（知・肢・病）		○	
小学校教諭一種免許状　＋ 中学校教諭二種免許状（英語）（副免許）			○

教育職員免許状取得の方法

教員の養成の目標

心理学部の「こころを探り、人を支える」というテーマのもと、教育発達学科では「教育発達学の視点からの教育実践力、及び発達支援力のある人材の育成」を教育目標に掲げている。「教育発達学」は、発達や障害に関するメカニズムの理解を基礎とした上で、系統的な教育システムのあり方について分析的・科学的に探求する教育学、心理学、障害科学を融合した学問である。そこで本学科では、人間の生活全体を視野に入れ、教育発達学を基礎として、多様な現場での体験活動を通して、生涯発達における学校との接点を実践的に学び、現代の子どもをめぐる心理的課題に適切に対処できる教育の原理と方法を学修し、学校教育や生涯学習の場における高い教育実践力、及び発達支援力を身に付けることを目指している。

１．教育職員免許状

教育職員免許状は、普通免許状、特別免許状及び臨時免許状に大別される。

①　普通免許状

普通免許状は専修免許状（大学院修了等）、一種免許状（４年制大学卒業）、二種免許状（短大卒業）に区分されており、すべての都道府県において効力を有する。

②　特別免許状

特別免許状は大学で教職課程を履修していなかったが、社会人となってから職場などで専門的知識・技能などを身につけた者に対して授与される免許状である。

（本学学生は対象外）

③　臨時免許状

臨時免許状は、その免許状の授与を受けたときから３年間、その免許状を授与した授与権者の置かれる都道府県においてのみ効力を有する臨時的な免許状である。

（本学学生は対象外）

※　本学学生が対象とする免許状は、①の普通免許状である。

※　授与される①普通免許状②特別免許状は、有効期間 10 年である。

２．免許状の種類と教科

本学科で取得できる教育職員免許状の種類と教科は、次のとおりである。

・小学校教諭一種免許状

・幼稚園教諭一種免許状

・特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者に関する領域）
（肢体不自由者に関する領域）
（病弱者に関する領域）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

副免許制度を利用することで取得できる教育職員免許状の種類と教科は、以下のとおりである。

・中学校教諭二種免許状（英語）

（注）１．高等学校の教育職員免許状の教職課程は開設していない。

２．本学の特別支援学校教諭一種免許状は「視覚障害に関する領域」、「聴覚障害に関する領域」の２領域を有していない。

３．特別支援学校教諭一種免許状、中学校教諭二種免許状（英語）を取得するには、小学校教諭一種免許状を取得する必要がある。

４．副免許制度の利用にあたっては、さまざまな条件や制約がある。

３．免許状取得のための要件

教育職員免許状を取得するための必要な要件は、次のとおりである。

１．小学校教諭一種，幼稚園教諭一種

	小学校教諭一種	幼稚園教諭一種
教育の基礎的理解に関する科目・ 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目・ 教育実践に関する科目	31 単位	25 単位
教科及び教科の指導法に関する科目（小） 領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼）	32 単位	26 単位
文部科学省令で定める科目 教員免許法施行規則第 66 条の 6 に関する科目 （P.104）	日本国憲法　２単位 体　　育　２単位 外国語コミュニケーション　２単位 情報機器の操作　２単位	
基礎資格	学士の学位を有すること（4 年制大学卒業）	

注　１．小学校一種免許状を取得する場合、上記に加えて介護等体験を行うことが必要である。（P.98 参照）

２．法令が定める「教育の基礎的理解に関する科目・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・教育実践に関する科目」の最低習得単位数は小学校教諭一種 27 単位、幼稚園教諭一種 21 単位であるが、本学は、それぞれ上表の通りで認定を受けている。

３．「教科及び教科の指導法に関する科目」の最低習得単位数は小学校教諭一種 30 単位、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の最低習得単位数は幼稚園一種 16 単位であるが、本学は、それぞれ上表の通りで認定を受けている。

２．特別支援学校教諭一種

	特別支援学校教諭一種 （知的障害者に関する領域） （肢体不自由者に関する領域） （病弱者に関する領域）
特別支援教育に関するページ（P.107）	27 単位
基礎資格	・学士の学位を有すること（4 年制大学卒業） ・小・中・高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること

注　１．本学科では特別支援学校教諭一種免許状を取得する場合は、小学校の免許状取得のための履修と平行して履修すること。

（すなわち、普通免許状が取得できなければ、特別支援学校教諭一種免許状を取得することはできない。）

２．法令が定める「特別支援教育に関する科目」の最低習得単位数は 26 単位であるが、本学は、それぞれ上表の通りで認定を受けている。

４．履修上の注意

１．卒業要件と教育職員免許状の取得要件は異なる。また科目を履修するにあたっては、履修条件が付されている場合があるので、「教育発達学科　履修の方法」を参照すること。

２．卒業要件と教育職員免許状取得要件の科目が重複している場合は、両方に共通して使用することができる。

３．同一曜日に白金校舎、横浜校舎それぞれの履修を行う場合は、履修登録上の条件があるので注意すること。

４．中学校教諭二種免許状（英語）取得のためには、小学校教諭一種免許状の取得が前提であり、教育発達学科の科目以外に、教職課程、英文学科が開講する科目の単位を修得しなければならない。取得を希望するものは、「８．中学校教諭第二種免許状（英語）の取得について」を参照すること。また、説明会や配布資料等をとおして正しい理解が必要である。

５．介護等体験

1997年 6月18日、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が公布され、1998年 4月１日から施行された。そのため本学で小学校教員免許状を取得するためには、「免許状取得のための要件」に加えて、介護等体験を行うことが必要である。

介護等体験の概要は、以下のとおりである。

１．立法の趣旨

教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員の資質向上及び学校教育の一層の充実を図る観点から、当面、小学校及び中学校の教諭の普通免許状取得志願者に、介護等の体験を行わせること。（法律第１条）

２．介護等体験の内容

障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの人々との交流等の体験（法律第２条）

３．介護等体験の実施施設

・特別支援学校

・文部科学省令で定められた社会福祉施設、文部科学大臣告示で指定された施設

４．介護等体験の期間

文部科学省令により７日間と定められ、社会福祉施設等で５日間、特別支援学校で２日間行うことが、モデルケースとされている。

５．介護等体験の適用対象者

小学校教員免許状取得希望の学生が対象である。中学校教諭二種免許状（英語）取得希望者がこれと別に介護等体験を行う必要はない。

６．介護等体験の実施時期

教育発達学科では、介護等体験を通して学んだことを教育実習でも活かせるように、教育実習を行う前年度（３年次）に介護等体験を実施するように定めている。

※　２年次生以上対象介護等体験オリエンテーション（体験前年度の秋学期に実施予定）に出席し、希望登録をおこない、所定の申込手続をとることが必要である。

７．教員免許状申請に係る手続

「３」で示した社会福祉施設等及び特別支援学校の長が、介護等体験を行った旨の証明書を発行する。

免許状を申請するにあたり、この証明書を都道府県教育委員会に提出することとなる。

６．教育実習

教育実習とは

教育実習は、教育職員免許状取得のために必要であり、大学の授業と教育実習校・園（以下、実習校・園とする）で行う実習によって構成されています。本学では、「教育実習１」「教育実習２」「特別支援学校教育実習」という通年科目がこれに当たり、４年次（最終学年次）において履修します。なお、実習校・園での実習期間は、２週間から４週間程度となります。

教育実習の事前・事後に、各種オリエンテーション・説明会が開催されます。以下にある実習の前提となる履修要件を満たすことの他に、これらに出席し、課題や各種書類の提出など必要な手続きを各自で行うことが単位修得のために必要です。

また３年次に行われる介護等体験は、小学校教員免許取得のための必須条件です。オリエンテーションなどは２年次から開催されます。これらに出席し、課題や各種書類の提出などの諸手続きを終えていない場合は、教育実習に関する科目を履修することができない場合があります。

なお、幼稚園免許のみの取得を希望する場合でも、２年次に行われるオリエンテーションへの出席と課題等の提出は必須となります。

履修する科目について

取得を希望する免許状によって、必要となる教育実習が異なります。本学では、それぞれの免許状に必要とされる資質に対応した教育実習科目を修得することが必要であると考えており、

小学校教諭一種免許状	⇒	教育実習１
幼稚園教諭一種免許状	⇒	教育実習２
特別支援学校教諭一種（知・肢・病）	⇒	教育実習１+特別支援学校教育実習

の履修を課しています。

ただし、「小学校教諭一種免許状にさらに幼稚園教諭一種免許状も取得したい」「幼稚園に就職を希望しているが、小学校教育についても学んで免許を取得したい」という場合は、必ずしもこの通りではありません。基本的には教育実習１か教育実習２のどちらかを履修し、その単位を修得することで免許を取得することが可能です。７の「教員免許を取得するために」をしっかりと読んでください。

事前指導・事後指導

「教育実習１」「教育実習２」「特別支援学校教育実習」には、事前指導と事後指導が含まれています。

- 事前指導は、実習に向うに当たり必要な事柄を学ぶ機会
- 事後指導は、実習を振り返り将来教員になるためにさらに深める必要がある課題を見つけ、それに取り組む準備をする機会

これらは、４年次の「教育実習１」「教育実習２」「特別支援学校教育実習」の授業時間外に設定される場合がありますので、学科掲示板などで確認し、必ず出席してください。事前指導・事後指導に出席しない場合は、実習の単位を修得することはできません。

実習校・園での実習

実習校・園での学びは、担当教諭の指導により学習指導案の作成や実際の授業を行うことを中心に、様々な活動が含まれています。特別活動などにも積極的に参加し、幼児・児童・生徒の理解に努めることが重要です。

また、実習校・園での活動は、その内容を「教育実習の記録」に記入し、担当教諭に提出して指導を受けることとなります。その日の活動を反省し、向上するための大切な資料なので、しっかりと記入してください。

教育実習の評価

「教育実習１」「教育実習２」「特別支援学校教育実習」の成績は、実習校・園の担当教諭と学校長・園長からの実習に対する評価、事前指導・事後指導での取り組みなどから、大学として総合的に判断します。

実習の前提条件

それぞれの教育実習を履修するためには、３年次終了までに下表の科目の単位を修得していることが必須となります。また特別支援学校教諭の免許取得に必要となる「特別支援学校教育実習」を受講するためには、関連科目の単位を修得しているだけでなく、「教育実習１」を履修するための条件を満たしていることが必要となります。履修年次などを確認し、各自で学習計画をしっかりと立ててください。

＜教育実習１（小学校）＞（（　）内は単位数）

教育実習１を受講するためには、次の条件を満たしていること。

・次の科目を必ず単位修得していること

小学校教育授業研究（1）
教育発達学方法論（体験活動）A（1）
教育発達学方法論（体験活動）B（1）

・次の科目より、**いずれか１科目２単位以上**を修得していること

教職概論（2）
教育の制度と経営（2）

・次の科目より、**いずれか２科目４単位以上**を修得していること

教育心理学（2）
生涯発達心理学（乳幼児・児童）（2）
教育相談の理論と方法（2）

・次の**教科の指導法**より、**４科目８単位以上**を修得していること

国語科指導法（2）
社会科指導法（2）
算数科指導法（2）
理科指導法（2）
生活科指導法（2）
音楽科指導法（2）
外国語（英語）指導法（2）
図画工作科指導法（2）
家庭科指導法（2）
体育科指導法（2）

＜教育実習２（幼稚園）＞（（　）内は単位数）
教育実習２を受講するためには、次の条件を満たしていること。 ・次の科目は**すべて**単位を修得していること 保育内容研究（1） ~~音楽実技１（1）~~ 教育発達学方法論（体験活動）A（1） 教育発達学方法論（体験活動）B（1） 保育内容総論（2） ・次の科目より、**いずれか１科目２単位**を修得していること 教職概論（2） 教育の制度と経営（2） ・次の科目より、**いずれか２科目４単位以上**を修得していること 教育心理学（2） 生涯発達心理学（乳幼児・児童）（2） 教育相談の理論と方法（2） ・次の保育内容より、**３科目６単位以上**を修得していること。ただし、**〇印の付いた科目のいずれか１科目２単位以上**を修得していること。 保育内容（健康）（2） 保育内容（環境）（2） 保育内容（人間関係）（2） 保育内容（言葉）（2） 〇保育内容（音楽表現）（2） 〇保育内容（造形表現）（2）

＜特別支援学校教育実習＞（（　）内は単位数）
特別支援学校教育実習を受講するためには、**教育実習１の前提条件を満たした**上で、次の条件を満たしていること。 ・次の科目は**すべて**単位を修得していること 特別支援教育学総論（2） 知的障害の病理（2） 特別支援教育授業研究（1） ・次の科目より、**いずれか１科目２単位以上**を修得していること。 病弱の心理・生理・病理（2） 肢体不自由の心理・生理・病理（2） ・次の科目より、**いずれか２科目４単位以上**を修得していること。 知的障害者教育課程論（2） 知的障害者指導論（2） 肢体不自由者教育論（2） 障害児教育相談とアセスメント（2） ・次の科目より、**いずれか２科目４単位以上**を修得していること。ただし**〇印の付いた科目から１科目２単位以上**を修得していること。 視覚障害教育総論（2） 聴覚障害教育総論（2） 〇障害児・者心理学（コミュニケーション）（2） 〇障害児・者心理学（学習）（2）

また、これらの科目は教育実習を履修するために必要な要件であり、教員免許取得に必須となる科目は他にもあります。希望する免許の種類と必要な科目を確認し、単位を計画的に修得してください。

７．教員免許を取得するために

履修することが必要な科目

教員免許を取得するためには、所定の科目を履修し、その単位を修得していることが必要です。この科目は、取得しようとする教員免許によって異なります。また、これらの科目の他に文部科学省令で定める科目（教員免許法施行規則第 66 条の６に関する科目）があります。

本学心理学部教育発達学科では、各教員免許で以下の通り修得すべき科目を定めているので、学習計画を立てる際の参考にしてください。

文部科学省令で定める科目（教員免許法施行規則第 66 条６に関する科目）

文部科学省令で定める科目	本学における開講科目	配当年次	単位	法令上必要な単位数
日本国憲法	日本国憲法	1	2	2
体育	体育	2	2	2
外国語コミュニケーション	※英語コミュニケーション 1A ※英語コミュニケーション 1B ※英語コミュニケーション 2A ※英語コミュニケーション 2B	1 1 1 1	1 1 1 1	2
情報機器の操作	※コンピュータリテラシー1 ※コンピュータリテラシー2	1 1	2 2	2
	合計		12	8

・「日本国憲法」は、学科科目「日本国憲法」を修得すること。

・「体育」は、学科科目「体育」を修得すること。

・※印は選択必修科目である。下記に従って履修すること。

①「外国語コミュニケーション」は、明治学院共通科目「英語コミュニケーション 1A、1B、2A、2B」より 2 科目 2 単位以上修得すること。

②「情報機器の操作」は、明治学院共通科目「コンピュータリテラシー1、2」より 1 科目 2 単位以上修得すること。

7.1. 小学校教諭一種免許状

免許法施行規則事項に規定する科目区分等		開講科目	配当年次	単位	法令上必要な単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	1	2	10
	教職の意義及び教員の役割・職務内容	教職概論	1	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育の制度と経営	2	2	
	幼児児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	1	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1	2	
	教育課程の意義及び編成の方法	教育課程編成論	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法	3	2	10
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2	2	
	特別活動の指導法	特別活動の指導法	2	2	
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法論	1	2	
	生徒指導の理論及び方法/進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒・進路指導の理論と方法	3	2	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法	3	2	
教育実践に関する科目	教育実習	※教育実習１	4	5	5
		※教育実習２	4		
	教職実践演習	教職実践演習（幼・小）	4	2	2
教科及び教科の指導法に関する科目	国語（書写を含む）	国　　語	1	2	30
	社　　会	☆社　　会	2	2	
	算　　数	算　　数	2	2	
	理　　科	理　　科	1	2	
	生　　活	☆生　　活	1	2	
	音　　楽	音　　楽	1	2	
	図　画　工　作	図　画　工　作	1	2	
	家　　庭	☆家　　庭	2	2	
	体　　育	体　　育	2	2	
	外　国　語	☆外　国　語	2	2	
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	国語科指導法	3	2	
		社会科指導法	3	2	
		算数科指導法	3	2	
		理科指導法	2	2	
		生活科指導法	2	2	
		音楽科指導法	3	2	
		図画工作科指導法	2	2	
		家庭科指導法	2	2	
		体育科指導法	2	2	
		外国語（英語）指導法	3	2	
大学が独自に設定する科目（※法令が定める最低修得単位数を超えて修得した単位を充てる）				※	2
		合　　計（選択科目以外の科目）		63	59

・☆印は選択科目である。
・※印は選択必修科目である。下記に従って履修すること。
①小学校免許を主免許として幼稚園を取得するものは「教育実習１」を修得すること。
②幼稚園免許を主免許とするものは「教育実習２」を修得すること。
③「教育実習１」と「教育実習２」はいずれか１科目のみで、免許を取得することができる。ただし、特に希望する者に限り２科目の履修を認めることがある。
・法令が定める小学校教員免許の最低修得単位数は 59 単位であるが、本学は 63 単位で課程認定を受けている。

7.2. 幼稚園教諭一種免許状

免許法施行規則事項に規定する科目区分等		開講科目	配当年次	単位	法令上必要な単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	1	2	10
	教職の意義及び教員の役割・職務内容	教職概論	1	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育の制度と経営	2	2	
	幼児児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	1	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1	2	
	教育課程の意義及び編成の方法	教育課程編成論	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法論	1	2	4
	幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法	3	2	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論と方法	3	2	
教育実践に関する科目	教育実習	※教育実習２	4	5	5
		※教育実習１	4		
	教職実践演習	教職実践演習（幼・小）	4	2	2
領域及び保育内容の指導法に関する科目	国　　語	国　　語	1	2	16
	算　　数	算　　数	2	2	
	生　　活	生　　活	1	2	
	音　　楽	音　　楽	1	2	
	図　画　工　作	図　画　工　作	1	2	
	体　　育	体　　育	2	2	
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容総論	2	2	
		保育内容（健康）	2	2	
		保育内容（人間関係）	3	2	
		保育内容（環境）	3	2	
		保育内容（言葉）	3	2	
		保育内容（音楽表現）	3	2	
		保育内容（造形表現）	3	2	
大学が独自に設定する科目（法令が定める最低修得単位数を超えて修得した単位を充てる）				※	14
		合　　計		51	51

・※印は選択必修科目である。下記に従って履修すること。

①幼稚園免許を主免許として小学校を取得するものは「教育実習２」を修得すること。

②小学校免許を主免許とするものは「教育実習１」を修得すること。

③「教育実習１」と「教育実習２」はいずれか１科目のみで、免許を取得することができる。ただし、特に希望する者に限り２科目の履修を認めることがある。

7.3. 特別支援学校教諭一種（知・肢・病）

免許法施行規則に規定する科目区分		中心となる領域	含む領域	開講科目	配当年次	単位	法令上必要な単位数	
特別支援教育の基礎理論に関する科目				特別支援教育学総論	2	2	2	
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的		知的障害の病理	2	2	1	16
		肢体不自由	病弱	肢体不自由の心理･生理･病理	3	2	1	
		病弱		病弱の心理・生理・病理	3	2	1	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的	肢体不自由 病弱	知的障害者教育課程論	3	2	2	
				☆知的障害者指導論	3	2		
				障害児教育相談とアセスメント	3	2		
		肢体不自由	病弱	肢体不自由者教育論	3	2	2	
		病弱	肢体不自由	病弱教育総論	3	2	2	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目、心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的	肢体不自由	☆知的障害教育学総論	3	2	—	
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	聴覚		聴覚障害教育総論	2	2	5	
		重複･LD等	視覚	障害児・者心理学（コミュニケーション）	2	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	視覚		視覚障害教育総論	2	2		
		重複･LD等	聴覚	障害児・者心理学（学習）	2	2		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習				特別支援学校教育実習	4	3	3	
				合　　計（選択科目以外の科目）		27	26	

・☆印は選択科目である。

・『中心となる領域』『含む領域』については、一部を省略して掲載している。

・法令が定める『特別支援教育に関する科目』の最低修得単位数は 26 単位であるが、本学は 27 単位で課程認定を受けている。

８．中学校教諭二種免許状（英語）の取得について

教育発達学科では、副免許制度を利用して中学校教諭二種免許状（英語）（以下「中学校英語免許」と呼びます。）を取得することができます。これは、小学校教諭一種免許状（以下「小学校免許」と呼びます。）を取得する教育発達学科生が、英文学科・教職課程で開講している科目を修得することで、同時に中学校英語免許を取得するものであり、学科で許可した一部の学生に限り必要な科目の履修を認める、特別な制度です。

副免許制度への参加を認められた学生が履修を開始するのは、２年次からとなります。

1. 免許状取得に必要な科目と単位

副免許による中学校英語免許の取得に当たっては、法令をもとに、教育発達学科で小学校免許を取得するために修得する単位の一部を流用して中学校英語免許に必要な単位を軽減しています。逆にまた、同じような講義内容であっても、法令により単位修得が義務付けられている科目もあります。

小学校免許を取得できなかった場合は、小学校免許が取得できた場合に認められる流用であるため、この制度のすべての科目を修得していても中学校免許は取得できません。

中学校英語免許取得に必要な科目は、上記の流用をすることで軽減されて、下表のとおり英文学科の学科科目と教職課程の中学校教諭免許状取得のための開講科目から、**合計 32 単位**の修得が必要になります。また、配当年次欄は、英文学科と教職課程の配当年次であり、教育発達学科の学生が実際に履修する年次は異なる場合があります。

免許法施行規則に定める科目区分		科目名	単位数	配当年次
教科及び教科の指導法に関する科目	英語学	英語学概論 A	2	2
		英語学概論 B	2	2
		英文法 A	1	1
		英文法 B	1	1
	英語文学	※イギリス文学概論 A	2	1
		※イギリス文学概論 B	2	1
		※アメリカ文学概論 A	2	1
		※アメリカ文学概論 B	2	1
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	Listening and Speaking A	1	2
		Listening and Speaking B	1	2
		※Listening and Pronunciation A	1	1
		※Listening and Pronunciation B	1	1
		※Writing A	1	1
		※Writing B	1	1
		※Reading A	1	1
		※Reading B	1	1
	異文化理解	異文化理解 1	2	2
	教科の指導法	英語科指導法 1	2	3
		英語科指導法 2	2	3
		英語科指導法 3	2	2
		英語科指導法 4	2	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	※道徳教育の理論と方法	2	2
	特別活動の指導法	※特別活動の理論と方法	2	2
	進路指導及びｷｬﾘｱ教育の理論及び方法	※生徒・進路指導の理論と方法	2	2
教育実践に関する科目		教育実習	3	4
		合　　計	32	

・※印は選択必修科目である。下記に従って履修すること。

①「イギリス文学概論 A・B」、「アメリカ文学概論 A・B」、「Listening and Pronunciation A・B」、「Writing A・B」、「Reading A・B」については、A か B のいずれか 1 科目を修得しなければならない。

②「道徳教育の理論と方法」、「特別活動の理論と方法」、「生徒・進路指導の理論と方法」の３科目のうち、２科目４単位を修得しなければならない。

２．免許状取得の対象および選抜方法

対　象：２年次から国際教育コースに属する学生

免許取得の前提条件：小学校教諭一種免許状の取得が前提であり、中学校教諭二種免許状のみの取得は不可

選抜方法：中学校教諭二種免許状（英語）取得のための科目を受講できるのは、次の①と②の方法によって選抜された者のみです。選抜基準をクリアできなかった者の受講は認められません。

①　書類審査

・次に掲げる１年次必修科目をすべて修得していること

＜学科必修科目＞

教育発達学概論 A･B、心理学総論、教育原論、国語、~~算数、~~多文化共生教育、特別支援教育論

＜小学校免許必修科目＞

日本国憲法、コンピュータリテラシー（1or2）、教職概論、教育方法論

＜明治学院共通科目必修科目＞

英語コミュニケーション 1A･1B･2A･2B、初習語 1A･1B･2A･2B

・１年次春学期までの総合 GPA が原則 2.0 以上であること。2.0 未満の者については、面接等も含めて学科が総合的に判断します。

・TOEFL スコア

②　面接試験

原則として、副免許制度参加後の辞退は認められません。但し、総合 GPA が 2.0 未満になるなど、学生の学修状況次第では、２年次以降、学科が副免許状取得に向けた履修の継続を取り消す場合があります。

３．中学校教諭二種免許状（英語）の履修者選抜に関するスケジュール

１年次　４月：オリエンテーション時に中学校教諭二種免許状（英語）について説明

５月：教育発達学概論の授業時に副免許状について説明

１１月：教育発達学概論でのコース説明の一部として、中学校教諭二種免許状（英語）取得について説明

１月下旬～２月：面接試験

３月：合格者決定

３月下旬：中学校教諭二種免許状（英語）履修者へのオリエンテーション（横浜教務課）

４．　年間履修制限単位数の特例

上記１の表に記載された科目を履修する場合、16 単位を限度として、学科で定める年間履修制限単位数に加えて履修することができます。

５．「教育実習」（中学校等での実習）

「教育実習」は教育発達学科の教育実習とは別の科目であり、以下の履修の前提条件と付帯条件があります。

①　前年度末までに『教職に関する科目』の「英語科指導法 1」および「英語科指導法 2」を修得すること。

②　「教育実習 1」（小学校での実習）を履修中であること。

③　自分で教育実習校を確保して、その内諾を得ていること。

６．その他

副免許制度参加に伴う費用としては、教育実習を中学校等でも行うことになるので、「教育実習登録料（中学校・高等学校）」（¥8,000）を実習前年度での納入が必要です。また、小学校と同様に、実習校での諸費用（交通費、教

材費など）および実習校への謝礼金なども必要に応じて負担することになります。

また、実際に中学校英語免許を目指すことが決定した学生には、履修指導を始めとして教育実習校の確保など様々な注意事項を説明する会が設けられるので、欠かさず出席しなければなりません。

９．学校図書館司書教諭について

学校図書館司書教諭とは

学校図書館法で定められた、学校図書館の専門的職務を担う教員です。具体的には教諭として採用された者が学校内の役割としてその職務を担当し、学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に関する指導等を行うなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担います。学級数が合計 12 学級以上の学校には、必ず司書教諭を置かなければなりません。

学校図書館司書教諭資格の取得のために履修することが必要な科目

学校図書館司書教諭の資格を取得するためには、下表の科目をすべて履修し、修得しなければなりません。

開講科目	単位数
学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2
合計	10

10. 教育職員免許状の授与申請

免許状を取得するには、授与権者である都道府県の教育委員会に申請する必要がある。授与申請には以下の二つの方法がある。

一括申請

本学が東京都教育委員会に教育職員免許状の授与申請を一括して代行申請する方法。
卒業見込みの４年次生は、免許状を取得するために必要な単位を修得見込みの場合、一括申請の申し込みができる。
申請希望者は、「教育職員免許状一括申請説明会」に出席し、申し込みの手続きをすること。説明会は３月下旬に実施される。説明会欠席の場合は、一括申請はできない（個人申請となる）。

個人申請

卒業後に、本人が居住する都道府県の教育委員会に免許状の授与申請を行う方法。

11. 教員採用試験

１．公立学校の教員になるには

都道府県等の教育委員会で実施する教員採用試験に合格しなくてはならない。試験時期は例年７月頃に行われるが、地方ごとに統一して行われる。この試験に合格すると教員採用候補者名簿に登載され、欠員を補充する形で採用されることになる。
東京都公立学校教員採用試験要項はキャリアセンターで配布（例年４月下旬、掲示板を確認すること）、その他の道府県については各教育委員会に問い合わせること。

２．私立学校の教員になるには

（１）私立学校の求人に直接応募する。
（２）希望する都道府県の私学協会（東京私立初等学校協会、神奈川県私立小学校協会など）の委託制度に登録する。

12. そ　の　他

科目等履修生による教育職員免許状の取得方法

卒業までに教育職員免許状取得のために必要な科目の単位を修得できなかった場合は、本学科卒業後科目等履修生として不足単位を修得することで、免許状を取得することができる。

※　科目等履修生の出願書類は、毎年３月上旬に教務部窓口にて配布する。

教員免許更新制度

2009年４月１日以降に授与される普通免許状または特別免許状の有効期間は、所要資格を得てから10年後の年度末までとなる。有効期間満了日の２年前から満了日（修了確認期限）までに大学などが開設する30時間の免許状更新講習を受講・修了し、免許管理者（教育委員会）にて修了確認を受けることで免許状が更新される。

更新講習の主な受講対象者は、①現職教員②教員採用内定者③教育委員会や学校法人などが作成した臨時任用（または非常勤）教員リストに登載されている者④過去に教員として勤務した経験のある者、となっている。

受講対象者であるか否かにかかわらず、更新講習を受講・修了しなかった場合は失効することになるが、免許状を返納する必要はない。更新講習を受講・修了することによって、有効な免許状を再び取得することができる。また、免許状を取得した際に、授与の基礎となった教職課程の単位まで無効にするものではない。よって、履歴書などに教員免許を所持している旨の記載は可能である。ただし、更新講習を受講する必要がある旨を併記する必要がある。

例）小学校教諭一種免許状（更新講習未受講）　等

心理学部専任教員一覧

心理学部専任教員一覧

心理学科

氏　　名	主な担当領域
伊藤　拓	学校心理学
金沢　吉展	健康心理学/臨床心理学
川端　一光	教育心理学/心理統計学
金城　光	認知心理学
清水　良三	心理臨床動作学
杉山　恵理子	グループアプローチ/福祉心理学
平子　雪乃	心理実習/心理演習
田中　知恵	産業・組織心理学/社会心理学
滑川　瑞穂	臨床心理アセスメント
西園マーハ　文	臨床精神医学
野末　武義	家族心理学
野村　信威	生涯発達心理学
花田　安弘	生理心理学
宮本　聡介	社会心理学/社会的認知
森本　浩志	認知行動療法

教育発達学科

氏　　名	主な担当領域
緒方　明子	障害児・者心理学
小野　昌彦	教育臨床心理学
垣花　真一郎	教育心理学
鞍馬　裕美	教育経営学
小林　潤一郎	障害児医学/発達小児科学
佐藤　公	社会科教育学
渋谷　恵	比較・国際教育学
杉山　雅俊	理科教育学
谷川　夏実	保育学・幼児教育学
玉腰　和典	体育科教育学
辻　宏子	数学教育学
手塚　千尋	美術科教育学
中村　敦雄	国語科教育学
根本　淳子	教育方法学
松永　あけみ	発達心理学/保育心理学
水戸　博道	音楽科教育学
宮崎　眞	特別支援教育学

諸資格

1. 社会教育士・社会教育主事任用資格

社会教育士・社会教育主事任用資格が取得できる学科

社会教育士・社会教育主事任用資格は、社会学科生と教育発達学科生が取得することができます。
※教育発達学科生は 2015 年度以降入学生に限ります。

社会教育士

2020 年4 月1 日に施行された「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令」に基づき、社会教育主事養成に係る社会教育に関する科目の単位を修得することにより、社会教育士と称することができるようになりました。
社会教育士は、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習を支援する活動を通じて、人づくりや地域づくりに関する活動に積極的に携わっていくことや、NPO や大学、企業等において広く活躍することが期待されています。
P.114の表に記載の科目に加えて、4年次に「社会教育経営論」および「生涯学習支援論」を修得することで、社会教育士と称することができます。

社会教育主事任用資格

社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる役職を担います。
社会教育主事任用資格を得るには、大学に2 年以上在学し、62 単位以上を修得しかつ大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得し、以下の①～③に掲げる期間を通算した期間が1 年以上必要となります。

①社会教育主事補の職にあった期間
②官公署・学校・社会教育施設又は社会教育関係団体における職で司書・学芸員その他の社会教育主事補の職と同等以上の職として文部科学大臣の指定するものにあった期間
③官公署・学校・社会教育施設又は社会教育関係団体が実施する社会教育に関係のある事業における業務であって、社会教育主事として必要な知識又は技能の習得に資するものとして文部科学大臣が指定するものに従事した期間（①又は②に掲げる期間に該当する期間を除く）

なお、社会教育主事になるためには、公務員試験に合格し、1 年以上の実務経験を積んだうえで社会教育主事の発令を受けることになりますが、社会教育主事任用資格を有していても必ずしも社会教育主事として発令されるものではありません。

本学社会学科生および教育発達学科生は、「社会教育に関する科目」を履修することができます。必要な科目を修得した方には、証明書を発行いたします。お求めになる場合は教務部までお問い合わせください。

（教育発達学科）

※本資格の取得は国際教育コースに所属する学生を中心としていますが、他のコースに所属する学生であっても、所属しているコースで指示された科目を履修し、かつ年間履修制限を超えない範囲において必要な科目を履修し単位を修得すれば、本資格を取得することも可能です。但し国際教育コース以外のコースに所属する学生については、4 年間の在学期間中に本資格の取得を保証するものではありません。

社会教育に関する科目

社会教育主事講習等規程に定める社会教育に関する科目	教育発達学科で開講している科目名 ()内の数字はその科目の単位数				最低修得単位数
生涯学習概論	生涯学習概論A	(2)	生涯学習概論B	(2)	必修 4単位
生涯学習支援論	生涯学習支援論A	(2)	生涯学習支援論B	(2)	必修 4単位
社会教育経営論	社会教育経営論A	(2)	社会教育経営論B	(2)	必修 4単位
社会教育特講	教育原論 多文化共生教育 教育心理学 教育の制度と経営 教育課程編成論 教育相談の理論と方法	(2) (2) (2) (2) (2) (2)	読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 子どもの人権と社会	(2) (2) (2)	選択必修 8単位
社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究	多文化社会教育実習	(2)	多文化社会教育課題研究	(2)	必修 4単位

表は、2020 年 4 月現在「社会教育士」「社会教育主事任用資格」取得のために必要な科目です。

（注 1）社会教育に関する科目のうち、上記の表にあるように、必修 4 領域より 16 単位、選択必修より 8 単位、計 24 単位を修得する必要があります。

（注 2）「多文化社会教育実習」（通年 2 単位）を履修するには、前年度までに次の科目（3 科目）を修得済みであることが前提になります。

① 「多文化共生教育」（2 単位）

② 「生涯学習概論 A」・「生涯学習概論 B」のうち、少なくとも 1 科目 2 単位以上

③ 「教育の制度と経営」・「教育心理学」・「教育課程編成論」のうち、少なくとも 1 科目 2 単位以上

（注 3）2020 年より、社会教育主事任用資格に加えて「社会教育士」の称号を得ることができる新しいカリキュラムに変更となりました。

2. 社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格が取得できる学科

社会福祉主事任用資格は、すべての学科の学生が取得することができます。

社会福祉主事の職務

国、地方公共団体、社会福祉法人など社会福祉事業を経営する者は、福祉サービスを必要としている人たちが心身ともに健やかに育成され、または社会、経済、文化その他の活動に参加する機会が与えられ、その年令、環境、心身の状況に応じて、地域において必要な福祉サービスを提供できるようにしなければなりません。このことに基づき、地方公共団体は、福祉に関する事務所を設置しており、ここには社会福祉主事をおくよう社会福祉法において義務づけられています。

社会福祉主事は、その事務所において生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法、及び知的障害者福祉法の定める援護、育成または更生の措置に関する事務を行うことを職務としています。

社会福祉主事任用資格を得るには

20歳以上の者で、人格高潔で思慮が円熟し、社会福祉の増進に熱意があり、かつ下記1～3のいずれかに該当する者が任用資格を得られます。**任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ社会福祉主事にはなれません。**

1. 大学において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修め卒業した者
2. 厚生労働大臣の指定する養成機関又は講習会の課程を修了した者
3. 厚生労働大臣の指定する社会福祉事業従事者試験に合格した者

本学学生は、次ページに挙げる**『社会福祉法に定める科目』を3科目以上修得**することで、社会福祉主事任用資格を得ることができます。『社会福祉法に定める科目』に対し、『本学で開講している科目』を表記していますので、これらの科目を修得してください。

『本学で開講している科目』について、その科目を履修することができる学科を「○」で示しています、各科目の履修に際しては条件が付される場合もあります。詳しくは所属学部の履修要項でご確認ください。なお表では学科名称に略称を用いています。(LE：英文学科、LF:フランス文学科、LA:芸術学科、EE:経済学科、EB：経営学科、EG：国際経営学科、SG：社会学科、SW:社会福祉学科、JU：法律学科、JC：消費情報環境法学科、JP:政治学科、JG：グローバル法学科、KS：国際学科、KC：国際キャリア学科、PS：心理学科、PE：教育発達学科)

本資格の取得要件を満たしている方には、証明書を発行いたします。お求めになる場合は教務部までお問い合わせください。

社会福祉法に定める科目名	本学で開講している科目名	履修できる学科　(2019 年度入学生)															
		LE	LF	LA	EE	EB	EG	SG	SW	JU	JC	JP	JG	KS	KC	PS	PE
社会福祉概論	社会福祉学概論 A・B								○								
	社会福祉学 1 社会福祉学 2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会福祉援助技術論	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ 1A								○								
社会福祉調査論	社会福祉調査								○								
	社会調査の基礎							○									
	社会調査論											○					
	2213 社会調査法													○			
社会福祉行政論	社会福祉法制							○	○								
	福祉行財政と福祉計画							○	○								
社会保障論	社会保障論 A・B				○	○	○	○	○								
公的扶助論	公的扶助論 A							○	○								
児童福祉論	児童福祉論 A・B							○	○								
	子ども家庭福祉																○
家庭福祉論	家庭福祉論							○	○								
身体障害者福祉論	身体障害者福祉論							○	○								
知的障害者福祉論	知的障害者福祉論							○	○								
精神障害者保健福祉論	精神疾患とその治療																
老人福祉論	高齢者福祉論 A・B							○	○								
地域福祉論	地域福祉論 A							○	○								
法学	法学(日本国憲法を含む)1 法学(日本国憲法を含む)2	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○	○	
	2309 法学原論													○			
民法	民法 A・B				○	○	○	○	○			○				○	
	民法総則 1・2									○	○	○	○				
行政法	行政法 A・B				○	○	○	○	○								
	行政法 1-1・1-2									○	○	○	○				
	行政法 2-1・2-2									○	○	○	○				
経済学	経済学概論 1・2					○	○	○	○	○	○	○	○				
	財政学 1・2				○	○	○			○	○	○					
	ﾐｸﾛ経済政策				○	○	○					○					
	ﾏｸﾛ経済政策				○	○	○					○					
	2205 経済原論													○			
社会政策	労働経済学 1・2				○	○	○										
	社会政策論 A・B								○								
心理学	心理学概論								○								
	心理学総論																○
社会学	社会学概論 A・B	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	社会学概論								○								
	2308 社会学原論													○			
教育学	教育の思想と歴史	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	
	教育原論																○
医学一般	医学知識								○								
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ論	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ論																○
介護概論	介護概論								○								

社会福祉主事の資格に関する科目

(注1)『本学で開講している科目』がない『社会福祉法に定める科目』は上記の表に掲載していません。
(注2)『本学で開講している科目』において、科目名の後にA・B、1・2が付されている科目は、2科目セットで修得しなければ『社会福祉法に定める科目』1科目と数えることができません。
(注3)『社会福祉法に定める科目』の同じ区分で、本学で開講している科目を複数科目修得しても、1科目と数えます。
（例えば、社会福祉学科生が「社会福祉学概論A・B」と「社会福祉学1・2」の合計4科目を修得した場合は、『社会福祉法に定める科目』の『社会福祉概論』1科目の修得と数えます。）
(注4)『社会福祉学1・2」および「法学（日本国憲法を含む）1・2」は、明治学院共通科目にある科目を履修してください。

3. 児童福祉司任用資格

児童福祉司の職務

児童福祉法に基づき、児童相談所には児童福祉司をおくことが義務づけられています。

児童福祉司は、児童相談所長の命を受けて、児童の保護、その他児童の福祉に関する事項について、相談に応じ、専門的技術に基づいて必要な指導を行う等、児童の福祉の増進に努めることを職務としています。

児童福祉司に任用される要件

1. 学校教育法に基づく大学において心理学、教育学もしくは社会学を専修する学科又はこれに相当する課程を修め卒業した者であって、厚生労働省令で定める施設において 1 年以上児童その他の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う業務に従事した者
2. 社会福祉主事として 2 年以上、児童福祉事業に従事した者
3. 厚生労働大臣の指定する児童福祉司又は児童福祉施設の職員を養成する学校その他の施設を卒業し又は厚生労働大臣の指定する講習会の課程を修了した者
4. その他（略）

上記のいずれかに該当する者はこの任用資格が得られます。**任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ児童福祉司にはなれません。**

本学社会学科生・社会福祉学科生・心理学科生・教育発達学科生は、卒業することで、上記1に定める「心理学、教育学もしくは社会学を専修する学科又はこれに相当する課程を修め卒業した者」であることになります。その証明は卒業証明書で行うことができます。

児童福祉司任用資格の取得には、これに加えて「厚生労働省令で定める施設において1年以上児童その他の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う業務に従事」する必要があります。

２０１９年度生用　心理学部 履修要項　教育発達学科 変更・訂正箇所について

心理学科に関する内容の部分は、記載していません。青字は履修要項本文ではなくこの対照表における説明です。

新 旧 対 照 表

ページ	新	旧
P.84 2019 年 4 月 15 日	[2]卒業に必要な単位数および各コースで履修する単位数	[2]卒業に必要な単位数および各コースで履修する単位数

新

部門		卒業に必要な単位（注 1）（注 2）		
		児童発達コース	特別支援コース	国際教育コース
明治学院共通科目	キリスト教の基礎	4	4	4
	英語	4	4	4
	初習語	4	4	4
	情報処理系科目	2	2	2
学科科目	学科基幹科目	10	10	10
	基礎科目	20	20	20
	教職基礎科目	**6**	**6**	**6**
	探究科目	22	18	20～24
	教職専門科目	0	0	0
	応用科目	0	4	0～4
選択科目（注 3）**（注 4）**		**52**	**52**	**50**
計		124	124	124

・「教職基礎科目」「選択科目」の単位数を修正しました。
・（注 4）の位置を修正しました。

旧

部門		卒業に必要な単位（注 1）（注 2）		
		児童発達コース	特別支援コース	国際教育コース
明治学院共通科目	キリスト教の基礎	4	4	4
	英語	4	4	4
	初習語	4	4	4
	情報処理系科目	2	2	2
学科科目	学科基幹科目	10	10	10
	基礎科目	20	20	20
	教職基礎科目	~~**12**~~	~~**12**~~	~~**12**~~
	探究科目~~**（注 4）**~~	22	18	20～24
	教職専門科目	0	0	0
	応用科目	0	4	0～4
選択科目（注 3）		~~**46**~~	~~**46**~~	~~**44**~~
計		124	124	124

<table>
<tr><th>ページ</th><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr>
<td>P.96
2019 年
4 月 15
日</td>
<td>3.免許状取得のための要件
1.小学校教諭一種、幼稚園教諭一種
<table>
<tr><th></th><th>小学校教諭一種</th><th>幼稚園教諭一種</th></tr>
<tr><td>教育の基礎的理解に関する科目・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・
教育実践に関する科目</td><td>31 単位</td><td>25 単位</td></tr>
<tr><td>教科及び教科の指導法に関する科目（小）
領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼）</td><td>32 単位</td><td>26 単位</td></tr>
<tr><td>文部科学省令で定める科目
教員免許法施行規則第 66 条の 6 に関する科目（P.104）</td><td colspan="2">日本国憲法 2 単位
体 2 単位
外国語コミュニケーション 2 単位
情報機器の操作 2 単位</td></tr>
<tr><td>基礎資格</td><td colspan="2">学士の学位を有すること（4 年制大学卒業）</td></tr>
</table>
注 1.（省略）
注 2.法令が定める「教育の基礎的理解に関する科目・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・教育実践に関する科目」の最低習得単位数は小学校教諭一種 27 単位、幼稚園教諭一種 21 単位であるが、本学は、それぞれ上表の通りで認定を受けている。
注 3.（省略）

・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の 2 つを、表内と注 2 の 2 ヵ所に追加しました。
・「外国コミュニケーション」を「外国語コミュニケーション」に修正しました。</td>
<td>3.免許状取得のための要件
1.小学校教諭一種、幼稚園教諭一種
<table>
<tr><th></th><th>小学校教諭一種</th><th>幼稚園教諭一種</th></tr>
<tr><td>教育の基礎的理解に関する科目</td><td>31 単位</td><td>25 単位</td></tr>
<tr><td>教科及び教科の指導法に関する科目（小）
領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼）</td><td>32 単位</td><td>26 単位</td></tr>
<tr><td>文部科学省令で定める科目
教員免許法施行規則第 66 条の 6 に関する科目（P.104）</td><td colspan="2">日本国憲法 2 単位
体育 2 単位
外国コミュニケーション 2 単位
情報機器の操作 2 単位</td></tr>
<tr><td>基礎資格</td><td colspan="2">学士の学位を有すること（4 年制大学卒業）</td></tr>
</table>
注 1.（省略）
注 2.法令が定める「教育の基礎的理解に関する科目」の最低習得単位数は小学校教諭一種 27 単位、幼稚園教諭一種 21 単位であるが、本学は、それぞれ上表の通りで認定を受けている。
注 3.（省略）</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><th>ページ</th><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>P.97
2019 年
4 月 15
日</td><td>3.免許状取得のための要件
2.特別支援学校教諭一種
<table><tr><td></td><td>特別支援学校教諭一種
（知的障害者に関する領域）
（肢体不自由者に関する領域）
（病弱者に関する領域）</td></tr><tr><td>特別支援教育に関するページ（P.107）</td><td>27 単位</td></tr><tr><td>基礎資格</td><td>・学士の学位を有すること（4 年制大学卒業）
・小・中・高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること</td></tr></table>
・特別支援学校教諭一種取得に必要な単位数「29 単位」を「27 単位」に修正しました。</td><td>3.免許状取得のための要件
2.特別支援学校教諭一種
<table><tr><td></td><td>特別支援学校教諭一種
（知的障害者に関する領域）
（肢体不自由者に関する領域）
（病弱者に関する領域）</td></tr><tr><td>特別支援教育に関するページ（P.107）</td><td><s>29</s>単位</td></tr><tr><td>基礎資格</td><td>・学士の学位を有すること（4 年制大学卒業）
・小・中・高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>P.102
2019 年
4 月 15
日</td><td>実習の前提条件
<table><tr><td>＜教育実習２（幼稚園）＞（(　)内は単位数）</td></tr><tr><td>～省略～

・次の保育内容より、３科目６単位以上を修得していること。ただし、○印の付いた科目のいずれか１科目２単位以上を修得していること。

～省略～</td></tr></table>
・「保育の指導法」を「保育内容」に修正しました。</td><td>実習の前提条件
<table><tr><td>＜教育実習２（幼稚園）＞（(　)内は単位数）</td></tr><tr><td>～省略～

・次の<s>保育の指導法</s>より、３科目６単位以上を修得していること。ただし、○印の付いた科目のいずれか１科目２単位以上を修得していること。

～省略～</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>ページ</th><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>P.105
2019 年
4 月 15
日</td><td>7.教員免許を取得するために
7.1.小学校教諭一種免許状
<table><tr><th colspan="2">免許法施行規則事項に規定する科目区分等</th><th>開講科目</th><th>配当年次</th><th>単位</th><th>法令上必要な単位数</th></tr><tr><td colspan="6">（省略）</td></tr><tr><td>教科及び教科の指導法に関する科目</td><td>算数</td><td>算数</td><td>2</td><td>2</td><td>（省略）</td></tr><tr><td colspan="6">（省略）</td></tr></table>・算数の配当年次「1 年次」を「2 年次」に修正しました。
・「領域及び教科の指導法に関する科目」を「教科及び教科の指導法に関する科目」に修正しました。</td><td>7.教員免許を取得するために
7.1.小学校教諭一種免許状
<table><tr><th colspan="2">免許法施行規則事項に規定する科目区分等</th><th>開講科目</th><th>配当年次</th><th>単位</th><th>法令上必要な単位数</th></tr><tr><td colspan="6">（省略）</td></tr><tr><td>領域及び教科の指導法に関する科目</td><td>算数</td><td>算数</td><td>~~1~~</td><td>2</td><td>（省略）</td></tr><tr><td colspan="6">（省略）</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>P.106
2019 年
4 月 15
日</td><td>7.教員免許を取得するために
7.2.幼稚園教諭一種免許状
<table><tr><th colspan="2">免許法施行規則事項に規定する科目区分等</th><th>開講科目</th><th>配当年次</th><th>単位</th><th>法令上必要な単位数</th></tr><tr><td colspan="6">（省略）</td></tr><tr><td>領域及び保育内容の指導法に関する科目</td><td>算数</td><td>算数</td><td>2</td><td>2</td><td>（省略）</td></tr><tr><td colspan="6">（省略）</td></tr></table>・算数の配当年次「1 年次」を「2 年次」に修正しました。</td><td>7.教員免許を取得するために
7.2.幼稚園教諭一種免許状
<table><tr><th colspan="2">免許法施行規則事項に規定する科目区分等</th><th>開講科目</th><th>配当年次</th><th>単位</th><th>法令上必要な単位数</th></tr><tr><td colspan="6">（省略）</td></tr><tr><td>領域及び保育内容の指導法に関する科目</td><td>算数</td><td>算数</td><td>~~1~~</td><td>2</td><td>（省略）</td></tr><tr><td colspan="6">（省略）</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>P.108
2019 年
4 月 15
日</td><td>8.中学校教諭二種免許状（英語）の取得について
1.免許状取得に必要な科目と単位
（表省略）
・※印は選択必修科目である。下記に従って履修すること。
① 「イギリス文学概論 A･B」、「アメリカ文学概論 A･B」、「Listening and Pronunciation A･B」、「Writing A･B」、「Reading A･B」については、A か B のいずれか 1 科目を修得しなければならない。

・「1 単位」から「1 科目」に修正しました。※科目によって単位数が異なります。単位数にかかわらず、A か B のいずれか 1 科目を修得することが要件です。</td><td>8.中学校教諭二種免許状（英語）の取得について
1.免許状取得に必要な科目と単位
（表省略）
・※印は選択必修科目である。下記に従って履修すること。
① 「イギリス文学概論 A･B」、「アメリカ文学概論 A･B」、「Listening and Pronunciation A･B」、「Writing A･B」、「Reading A･B」については、A か B のいずれか ~~1 単位~~を修得しなければならない。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>ページ</th><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>P.109
2019 年
4 月 15
日</td><td>8.中学校教諭二種免許状（英語）の取得について
2.免許状取得の対象および選抜方法

①書類審査
・次に掲げる 1 年次必修科目をすべて修得していること
〈学科必修科目〉
教育発達学概論 A･B、心理学総論、教育原論、国語、多文化共生教育、特別支援教育論

・修得すべき科目から「算数」を削除しました。</td><td>8.中学校教諭二種免許状（英語）の取得について
2.免許状取得の対象および選抜方法

①書類審査
・次に掲げる 1 年次必修科目をすべて修得していること
〈学科必修科目〉
教育発達学概論 A･B、心理学総論、教育原論、国語、~~算数、~~多文化共生教育、特別支援教育論</td></tr>
<tr><td>P.90
2020 年
3 月 18
日</td><td>〔7〕学科科目
（9）短期留学認定科目
<table><tr><th>配当年次</th><th>児童発達</th><th>特別支援</th><th>国際教育</th><th>科　目　名</th><th>単位数</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>TESOL Seminar（短期留学）</td><td>2</td></tr></table>
・「TESOL Seminar（短期留学）」の単位数を修正しました。</td><td>〔7〕学科科目
（9）短期留学認定科目
<table><tr><th>配当年次</th><th>児童発達</th><th>特別支援</th><th>国際教育</th><th>科　目　名</th><th>単位数</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>TESOL Seminar（短期留学）</td><td>4</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>P.99
2020 年
3 月 18
日</td><td>6.教育実習
教育実習とは
なお、幼稚園免許のみの取得を希望する場合でも、2 年次に行われるオリエンテーションへの出席と課題等の提出は必須となります。

教育実習の注意事項を追記しました。</td><td>6.教育実習
教育実習とは</td></tr>
<tr><td>P.102
2020 年
3 月 18
日</td><td>＜教育実習 2（幼稚園）＞
~~音楽実技 1（1）~~
・修得すべき科目から「音楽実技 1」を削除しました。</td><td>＜教育実習 2（幼稚園）＞
音楽実技 1（1）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>ページ</th><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>P.119～120
2020年3月18日</td><td>1.社会教育士・社会教育主事任用資格

今年度から取得可能になる社会教育士の取得方法についての注意点を追記しました。</td><td>1.社会教育主事任用資格</td></tr>
<tr><td>P.80、P.87
2020年7月3日</td><td>卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連表（能力要件表）

（4）探究科目
子どもの人権と社会　配当年次　4→3

〔7〕学科科目
（4）探究科目
<table>
<tr><th>配当年次</th><th>児童発達</th><th>特別支援</th><th>国際教育</th><th>科　目　名</th><th>単位数</th></tr>
<tr><td>~~4~~ 3</td><td>E</td><td></td><td>N</td><td>子どもの人権と社会</td><td>2</td></tr>
</table>
配当年次を修正しました。</td><td>卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連表（能力要件表）

（4）探究科目
子どもの人権と社会　配当年次　4

〔7〕学科科目
（4）探究科目
<table>
<tr><th>配当年次</th><th>児童発達</th><th>特別支援</th><th>国際教育</th><th>科　目　名</th><th>単位数</th></tr>
<tr><td>4</td><td>E</td><td></td><td>N</td><td>子どもの人権と社会</td><td>2</td></tr>
</table></td></tr>
</table>